

Captains of Industry ~ 知と業(わざ)のフロンティア

〈対談〉  
日本のリーダーが語る  
世界競争力のある人材とは？

国際協力銀行経営責任者

**渡辺博史氏**

一橋大学理事・副学長

小川英治

連載企画 **一橋の授業**

経済学部・経済学研究科

進化する大学

**進む一橋大学の情報化戦略**

—信頼度の高い研究情報発信の基盤が整う

〈対談〉  
一橋の女性たち

日経BP社記者

**治部れんげ氏**

商学研究科准教授

山下裕子

〈連載企画〉

Ties and bonds

中和情報センター 代表取締役社長

**方 淳氏**

連載企画

Captains

**小山健三**

特別企画

**大震災からの  
復興を考える**

「縮んで伸びる」という発想

震災後の状況に創造的に対応するために

経済学研究科教授 齊藤 誠

東日本大震災復興に向けた8力条

経済学研究科 国際・公共政策大学院教授 佐藤主光

地球の風 地域の風

株式会社佐々直 代表取締役

**佐々木直哉氏**



巻頭特集

日本のリーダーが語る  
世界競争力のある人材とは？

【対談】

国際協力銀行経営責任者／渡辺博史氏  
小川英治理事・副学長

背景の違いを前提として是認し、  
相手の立場で自分の意見を検証してみる

特別企画

大震災からの復興を考える

「縮んで伸びる」という発想

震災後の状況に創造的に対応するために

経済学研究科教授／齊藤 誠

東日本大震災復興に向けた8力条

経済学研究科 国際・公共政策大学院教授／佐藤主光



特集

地球の風 地域の風  
株式会社佐々直 代表取締役／佐々木直哉氏

連載企画

一橋の授業

《経済学部・経済学研究科》

経済学研究科長・経済学部長／蓼沼宏一

経済史／高柳友彦講師

経済の日本語Ⅰ・Ⅱ／今村和宏准教授

基礎ミクロ経済学／竹内 幹准教授

基礎マクロ経済学／塩路悦朗教授

国際経済学／石川城太教授

開発経済学／小田島 健特任准教授

資源経済学／山下英俊准教授

市場と社会／水岡不二雄教授・石倉雅男教授

行動経済学／齊藤 誠教授

特集

進化する大学

進む一橋大学の情報化戦略

信頼度の高い研究情報発信の基盤が整う

研究室訪問 chat in the den

法学研究科教授／王 雲海

社会学研究科教授／マイク・モラスキー

連載企画

Captains

小山健三 教育の力



写真  
小山健三傳  
からの転載

連載企画

一橋の女性たち

【対談】

日経BP社記者／治部れんげ氏

商学研究科准教授／山下裕子

連載企画

Ties and bonds

中和情報センター 代表取締役社長／方 淳氏

Love of Culture

ハードロックバンド「RUSH」の魅力

Book Review

Captains of IndustryたるもC Captains of Householdたれ

Campus Information

◆一橋大学基金ご寄付者のご芳名

◆平成23年度一橋大学附属図書館企画展示のお知らせ

◆節電アイデア・コンテストを実施しました

◆一橋大学法科大学院が、平成23年司法試験合格格率で

4 回目の全国トップとなりました

◆一橋大学兼松講堂レジデントオーケストラ

国立シンフォニカー第3回定期演奏会開催のお知らせ



## 日本のリーダーが語る世界競争力のある人材とは？

国際協力銀行は、日本政策金融公庫の国際金融部門である。重要な資源の海外での開発や産業界の国際競争力の向上、国際金融秩序の混乱への対応……と、国際社会の健全な発展を担っている。その経営責任者の渡辺博史氏は、国際金融のスペシャリストであり、一橋大学で教鞭を執っていたこともある。お互いに親交が深いこともあり、小川英治副学長との対談は、一橋大生の印象からグローバル人材論まで、大いに盛り上がった。



# 背景の違いを前提として是認し、 相手の立場で自分の意見を検証してみる

## 一橋の学生に必要な 英語力と数学力のいっそうの強化

**小川** 渡辺さんには、3年前に一橋大学で教鞭を執っていただきました。最初に、そのときの印象からお伺いしたいと思います。

**渡辺** 商学部の1〜2年生、ビジネススクール（大学院商学研究科経営学修士コース）の1〜2年生を担当させていただきました。半年という短い期間だったので、十分に本質が見えていたかどうかはわかりませんが、学生の文章力は1年次から相当高いレベルにあると感じました。しかし、これは現行の入試制度で文章構成力の評価が試験にうまく反映されていたためではないかと推察します。2年次になると言葉を用いた発表力、プレゼンテーション力がかかりついてきます。これは大学に入ってから鍛えられたもので、1年次のゼミの効果が上がっているのだと思います。おしなべて基礎的な能力は高いですね。私の講義では、政治問題、社会問題、アメリカの経済政策決定過程などをテーマにしましたが、学生たちは専門ばかりでなく、若者らしくさまざまなことに関心を示していました。

これからの必要性でいえば、やや不十分



日本のリーダーが語る  
世界競争力のある人材とは？

なのは英語の力と数学の力です。英語力、数学力をもっと伸ばされていてもいい。しかし、こちらから何かをぶつけければ、応えるだけの力を学生は持っています。

**小川** 大学では、学生にどういう付加価値をつけられるかが、ポイントとなりますね。

**渡辺** そうですね。「これからは数学ができないとだめだ」と言ったら、「数学が苦手だから商学部に来ました」と答えた学生がいました。しかし、少なくとも経済学と商学については、数学は不可欠です。恐らく受験のための勉強はしても、経済学や商学のためになぜ行列なり統計手法といった数学が必要なのかをわかっていないのでしょう。経済分析やビジネス分析などで数学が必要なことをわかってもらえ

国際協力銀行経営責任者

# 渡辺 博史 氏

渡辺博史（わたなべ・ひろし）  
1949年6月東京生まれ。1972年3月東京大学法学部を卒業後大蔵省（現財務省）入省。1971年10月司法試験合格。1975年6月アメリカ・ブラウン大学経済学修士課程を修了。理財局、主税局、国際局、財務官を経て2007年7月退官。同10月（財）国際金融情報センター顧問。2008年4月一橋大学大学院商学研究科教授。2008年10月日本政策金融公庫副総裁 国際協力銀行経営責任者。

るような教え方が必要なのでしょね。英語もそうですが、経済学や商学の授業のなかで数学がどのようにリンクしているのかを教えていけば、学生が付加価値を身につけることにつながるでしょう。

**小川** 一橋大学は、ゼミナール教育に力を入れていますが、商学部では1年次からゼミを行っています。英語や数学の重要性を教科から改めて教えるという意味では、ゼミは有効だといえます。

**渡辺** 1年次の導入ゼミは幅広い題材を取り扱っていますから、そのなかに英語や数学をとけ込ませるようなゼミが展開できればいいですね。私が大学に入学したときは学園紛争の最中でした。東京大学では、紛争終了後に英語の授業をインテンシブ・リーディング、エクステンシブ・リーディング、ライティング、ヒアリングの四つに分けていました。インテンシブ・リーディングがいわゆる通常の英語の授業です。エクステンシブ・リーディングでは、全学部の先生が専門教科を英語で教えていました。社会科学系の先生からご自身の関心事項を英語で教えていただいたというのは、大いに身になりました。

英語そのものを学ぶことに加え、英語を使って専門教科を学ぶことが大事です。要は教養課程の立て方だといえます。

**小川** たとえば、日本の歴史を英語で教える。将来社会に出て、日本のことを英語で説明する必要が生ずることもあり得ますから、こうしたことを英語で



勉強するというのも重要ですね。

**渡辺** 世界的に通用する人材といっても、自国文化に疎いコスモポリタンでは意味がありません。自分の国や経済社会について説明できるだけの知識がなくてはなりません。世界が日本人に聞きたいのは、日本経済や産業がどうなっているのかということだと思います。それがきちんと頭に入っていて適切な言葉で説明できなければなりません。

**小川** 一橋大学でも英語で行う授業を増やしています。ところで、MBAのほうの印象はいかがでしたか。

**渡辺** グローバル・ファイナンシャル・エンバイロメントという講座は36名の学生のうち6割が外国人留学生でした。学部生に比べて関心を持つ内容が専門的で、教えるほうも楽しかったですね。そこでも英語の問題が出てきます。外国人留学生は、トライリンガルに近く2・6か、2・7か国語ぐらい使いこなします。これに対して日本人の学生はせいぜい1・5か国語でしょうか。授業のなかで英語を身につけていけるような機会を、より多くしていく必要があると思います。

一橋大学理事・副学長

# 小川英治

小川英治（おがわ・えいじ）

1957年5月北海道生まれ。1981年3月一橋大学商学部卒業。1983年3月同大学院院商学研究科修士課程修了。1986年3月同大学院商学研究科博士課程単位取得。1999年1月同大学博士（商学）。一橋大学商学部特別研究助手、商学部専任講師、商学部助教授を経て、1999年4月大学院商学研究科教授。2009年1月、2010年12月商学研究科長・商学部長。2011年1月理事・副学長（財務、社会連携、企画・評価、情報化担当）。



## 世界競争力のある人材の条件を考える

**小川** 今日の対談のメインテーマは、「世界競争力のある人材」です。世界競争力のある人材について、渡辺さんはどのようにお考えですか。

**渡辺** まず、相手方と議論ができる能力を備えていることですね。何が問題で、何を解くことによって次のステップに進めるか、ということを押さえたいうえで議論を展開できることが基本です。そのためには、先ほど話題になったように、自国文化のことをよく知っていなければなりませんし、コミュニケーションツールである英語力も必要になってくるのです。

もう一つは、自分の言葉に責任を持つことです。仮説を基にディベートをしているときには、無理を承知のうえで主張するのがやむを得ない場合もあるでしょう。しかし、ものごとをつくり上げていく過程では、発言に責任を持たなければ次のステップに進めません。こうした信頼関係の醸成法に関しては、英語ばかりでなく日本語による教育でも必要だと思います。

**小川** お互いの信頼関係が醸成されなければ、売言葉に買言葉といった言葉遊びに終わってしまいます。では、どうすればそうした能力が身につくとお考えですか？

**渡辺** 海外で、あるいは国内であっても国際的な仕事をする場合には、相手方の立場は自分たちと違う。そして、違うことはあたりまえであり、悪いことではないということを理解する。これが重要になります。グローバル社会では、価値観がまったく違う国の人と交渉する機会が増えます。ですから、前提として、人それぞれに文化の背景が違うわけです。

し、それは善悪とは関係ないということを認識しておく必要があるのです。そして、相手の立場に立って考え、自分たちの主張がどう思われるかということに思いを馳せる必要があります。これが本当のグローバルなもの考え方です。ものごとはグローバルにしか動いていきませんから、文化や価値観の違いを主義主張としてとらえるのではなく、ファクトとしてとらえることが大切です。

このようなとらえ方は、実は日本の国内においても必要なわけで、本質的には躰しんたいに近い話ですが、こうした教育は高校までになされていませんから、大学で教える必要があります。

**小川** お互いの違いを受け入れるにはどうすればよいでしょうか。

**渡辺** 他国の考え方を知るには、日々、日本以外のニュースに触れることです。自分の関心のある国や地域を2〜3か所決めて、日本の新聞を読む時間の3分の1から2分の1を充てるのです。この国はどのような論理立てで動くのかということ、意図的に見ていくことです。ネット時代ですから、パソコンでいくらかでも情報は手に入ります。

また、英語は好き嫌いにかかわらずデファクト・スタンダード（事実上の標準）になっています。自分の言いたいことを相手に理解させるだけの英語力を身につけるために、大学の最初の2年間は集中的に学習してほしいですね。

**小川** 渡辺さんご自身は、どのように英語力を身につけてこられたのですか。

**渡辺** そうですね、いつどのようには分けられません。大学1〜2年生のときは学園紛争の最中でしたから、ほとんど授業を受けていません。たまたまゼミで、政治および日本思想史を勉強していたの

で、日本についての理解が深まりました。19世紀以降の日本は、海外との関連で自分自身を過度に褒めたり貶めたり繰り返して来たね。そういう内容のインプットをスト中でも「自主ゼミ」の形で行い、紛争終了後のヒアリング、エクステンシブ・リーディングを受けるなかでそれを英語の議論のなかに落とし込んでいきました。自分の発言に責任を持つということは、社会に出てから国際会議に送り出されて否応なしに学びました。

私は、2年間アメリカに留学しましたので、国際的なさまざまな場面に出ていきましたが、一國間交渉よりも多国間会議への出席が多かったために、つねに文化的に違う背景の相手が複数いるところで議論をしてきました。英語自体は、大学紛争後の東京大学での教育がベースになり、留学したことによって初めて一定のレベルで使えるようになったのだと思います。

## グローバル化の段階により異なる、求められる人材

**小川** 国際協力銀行から見ると、世界競争力がある人材とはどんな人材でしょうか。

**渡辺** グローバル人材に求められる能力も時代によって変化していると思います。グローバル化の第1期、第2期とその揺り戻しがありました。昔は本社の指示に従って尖兵として外地に赴く出先部隊としての「グローバル化の第1期」で、本社の指示を的確に表現できる語学力が何よりも求められていました。90年代になると広い立場で他の国との協調が必要になりました。アジアでは、日本を中心に雁行する発展



日本のリーダーが語る

世界競争力のある人材とは？

のなかでどのように地域的な分業体制をつくり、各国がそこでのような位置・役割を果たすかという意味で、情報発信力が問われるようになりました。英語と体力を駆使して、知的にものを構築し、他の国の人とそれを分担できる合意形成力が必要になってきたのです。

その後、若い人を含めて少し内向きになってきたという議論があります。また、グローバル化とアメリカのファイナンシャルイノベーションが混同されて、これではよくないという揺り戻しがありました。しかし、アメリカの二極支配が徐々に崩れると、アジアなどの我々のカルチャーと違う新しいプレーヤーが伸びてきました。ますます、相手が何を考えているかを読み取って構成する能力が必要になってきたのです。



第1期は本社に指示をもらえばよかったが、第2期には個人にも判断が求められるようになりまし。これからはますます、他の国の意向をどう汲み取ってまとめていくかという能力が必要な時代になっていきます。

**小川** グローバル化の前に国際化がありました。国際化のなか、日本人は国境を越えて海外に出ました。行き先の中心は欧米。しかし、今では欧米ばかりでなくアジアもカバーするようになっていきますから、昔と比べると地球規模の視点が必要になってきたわけですね。



**渡辺** ですから、特定の考え方で割り切ることができない社会になってきたのです。取捨選択の際の基準となる軸が、これまで以上に増えていくこととなります。こうした状況に精神的にタフにつきあえる人材が求められています。エキセントリックに日本が出しゃばることも、引つ込むこともないのです。

かつての強いアメリカでは、全産業が強かったのですが、過去30年で製造業が弱り、今ではサービス産業と農業は強いですが、産業分類では一と三が残りの二が抜けてしまっています。もともと、製造業はアメリカが資本を使っているアメリカ国外にやらせているという側面があったのですが、その部分を他の国の人が自ら担うようになっていきます。アメリカ経営のスタイルから変わっているところもあるわけで、今や、過度にアメリカという軸を立てずに客観的にそうした現象を見る目が必要になります。

## プロジェクト・ファイナンスは再チャレンジが可能な社会へのツール

**小川** 一橋大学は、このたび国際協力銀行と包括連携協定を結びました。プロジェクト・ファイナンスなど、世界で今どのようなことが起きているのか



といった生の現実を若い学生に教授していただくことになると思います。

**渡辺** 私が一橋大学で教鞭を執っていたときは、ゼミでもビジネススクールでもこう言っていました。アカデミックで論理的な構成は小川先生はじめ各先生方から聞いているという前提で、それがいかに実態の社会で活かされているかは私のほうから紹介する、と。今回の包括連携協定でやろうとしているのは、まさに現場での知恵や悩んできた背景を伝えることです。文化や歴史の違いから、各国には金融構造の違いがあります。こうした細かい話が、全体を揺るがすことにつながるということを理解してほしいからです。

プロジェクト・ファイナンスは国や組織体にファイナンスするのではなく、一つのプロジェクトに対してファイナンスするものです。ですから、リスクに対する考え方も根本的に変えていかなければなりません。これまでは、中堅以下の企業への融資は社長の個人資産を担保にしていたので、一度失敗したら起業家は二度と立ち直れないということがありました。しかしそれを繰り返しては、日本社会は発展していきません。再チャレンジ可能な社会を構築していかなければなりません。プロジェクト・ファイナンスでは、プロジェクトBが失敗してもAやCは残っていて、すべてを失ってしまうわけではない、そこで「もう一度」試みるという視点から運営されています。当然、企業のトータルなリスク管理のあり方も変わってきます。

**小川** プロジェクト・ファイナンスが再チャレンジを可能にするツールになると聞いて、感動しました。失敗をしたらすべてがだめになるといった風潮を変えていく。これはどういふスキームでできるの

かを学生に学んでもらいたいですね。

**渡辺** 金融機関も大企業に融資すれば安心だというのではなく、一つひとつのプロジェクトのキャッシュフローを分析して判断していかなければ、日本の金融機関全体が不動産担保偏重だった80年代の担保貸しの世界から抜け出せません。かつては、中小企業の社長のイノベーション能力に賭けてみようという姿勢がありました。人の能力、アイデアの整合性を重視しようというところに戻っていきましょう。それには金融機関の審査能力が必要になります。企業側もプロジェクトの個別管理により、うまくいっているもの、いかないものを判断しながらリスクを取っていくことが必要になります。

**小川** こうしたことを英語で講義していただけるわけですね。一橋大学は英語による授業を強化していますから、二重の意味で感謝しています。

**渡辺** 当行の職員にとっても、英語による講義は意味のあることです。普段は交渉英語を使っていますので、学生へのレクチャーに通用するかどうか、戸



惑っているようです。パブリックな機関の役割は、世の中で起こっていることをいち早くキャッチし、いかにわかりやすく国民に伝えるかにあります。国際金融の現場で起こっていることを、いかに学生に絵解きしながら伝えられるかですね。公的機関として、そのような能力が我々には必要だと思っています。

## 自分の「根」となるものを見つけだし、2〜3年次に徹底して鍛える

**小川** これからの一橋大学の学生に対しては、どのようなことを期待していますか。

**渡辺** 繰り返しになりますが、語学力と数学力を身につけてもらいたい。現実動いている世界では、日本の外のウエイトが高くなっています。実業の世界では、かつては内と外の境が明確でした。しかし、メーカーなどでは「内」と「外」という概念は少なくなっています。グローバルゼーションが事実としてそこにあるのです。日常的に海外で何が起こっているのか、関心を高く持つてもらいたいですね。就業構造も変わってきますから、日本だけにこだわらずに、世界のさまざまな企業を見ることです。

そして何よりも、「自分にはこれができる」というものを見つけて、そこからスタートすることです。その根が崩れてしまうと、人の意見に流されるばかりになってしまいます。ですから、学部4年間のうちにこの部分とこの部分に関心があるということがわかれば、3〜4年の後期ゼミでさらに掘り下げていき、自分がよって立つ原点を見つけることができます。



**小川** 学生が4年間をどのように過ごすかは重要ですね。先を見据えて、世の中では何が必要かを考えながら勉強していくことです。

**渡辺** 昔の企業は学生を即戦力とは考えていませんでしたから、大学には、学生への教育に期待をしていますが、あつせんでした。論理的思考さえ身につけていれば、あとは企業内のOJTで鍛えるという発想があつたからです。これからは違つてきます。大学の4年間をすばつと別のものとして切つて「消費」し、企業に入るのではなく、そのつなぎのようなものが必要になつてくるのではないのでしょうか。そこを見据えて勉強し、先生方も学生を教育していかなければなりません。

**小川** グローバル企業が就職先になるわけですから……。

**渡辺** バイリンガルではもたない時代がやつてきましたね。それを言うと学生が慌てますから、今は、少なくとも自分の専門分野と有機的につながつた英語を身につけることです。実社会に出れば、中国語やスペイン語など第2、第3外国語にチャレンジする機会があります。その重要な基礎となるのが英語です。一つの言語をマスターすれば、次はそう難しくありません。大学時代は日常的に語学に囲まれている状況が望ましいですね。企業に入ればそれが普通になる時代がやつてきますので。

**小川** 学生もそのような社会に出ていくのだという前提で、英語と専門を磨く。大学が十分にサポートすることで、付加価値の高い学生を社会に送り出すことになります。

**渡辺** 今の就職過程では、大学2～3年次にどれだけ鍛えられるかということが、非常に重要になります。

また、就職が決まつた後には、別のアジアスタディリティ、実社会に出るための別の切り口が必要です。たとえば、実務経験者を短期間招聘して大学とビジネス社会を結ぶ「社会送り出しコース」のようなプログラムがあると、つなぎになるでしょう。

**小川** 学部4年生の就職先決定後ではありませんが、在学中をおして、「キャリアゼミ」(通称、如水ゼミ)などの「社会送り出しコース」のような授業はありません。これからも、大学4年間と社会とを連続時間ではなくことができるようにしていきたいと考えています。

### 東日本大震災からの復興に向けて 国際協力銀行が果たす役割

**小川** 最後に、3月11日の東日本大震災からの復興に、国際協力銀行はどうかかわっていくのでしょうか。

**渡辺** そうですね、ポテンシャルには三つの業務があります。まず、原発問題関係では、代替エネルギーとして天然ガスや石油の輸入が増大しますから、ファイナンスがタイトになった際には当然、融資を考えます。しかし、現状では、日本の金融事情にはゆとりがあります。

次にジャパンプレミアムなど、仮に日本が狙い撃ちされて外貨ファイナンス・コストが高くなつた場合にも対応します。外為

### 日本のリーダーが語る 世界競争力のある人材とは？

特会(外国為替資金特別会計)から1兆5000億円のクレジットラインを得ていますから、必要な際にはどのようにでも対応いたします。もつとも、現在ではヨーロッパプレミアムがついているような状況ですし、4～5月は企業も債券発行を抑制していましたから、そう変化はありませんでした。

三つ目が、生産拠点の多様化への対応です。被災地のみならず工場がなかつた企業などは分散化が必ずです。日本を分散しているフォッサマグナの西側にも一つの拠点が必要になります。さらにもう一歩西に行つて海外に出てもおかしくありません。ただし、被災地の雇用問題や産業の空洞化などの問題がありますから、企業が熟慮したことを受けて、我々に何ができるかを考えたいと思っています。

**小川** 今後も現場でご活躍されつつ、その立場からのご指導をお願いいたします。本日は、大変貴重なお話をありがとうございました。



# 大震災 からの 復興を 考える

## 1

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、5月26日、一橋大学政策フォーラム・公開討論会「大震災からの復興を考える」を開催しました。本論文は、同フォーラムにて講演をした経済学研究科齊藤誠教授がHJQ用に上梓したものです。

### 「縮んで伸びる」という発想 震災後の状況に対応するために

経済学研究科教授 齊藤 誠

#### 大震災に直面した 日本社会の風景とは？

どのような風景のイメージをもって、今般の大震災が日本社会にもたらした影響をとらえればよいのであろうか。

このように考えることが非常に困難なのは、日本社会がいくつもの重要な側面でダウンサイジングしているからである。人口構造は、減少傾向に転じているとともに、高齢化が急速に進行している。日本経済の水準も、成熟した段階に入っている。特に、甚大な被害を受けた東北地方は、ダウンサイジングの問題がいつそう深刻である。

ダウンサイジングにある経済が大規模な自然災害を受けて急激に縮小せざるをえなくなった場合、「来るべき未来」が後倒しに遠のいた」というよりも、「来るべき未来」が前倒しで近づいてきた」というイメージで考えるほうがずっと自然である。

しかし、このような自然な考え方を受け入れることは、本当に難しい。人間は、その性として、自分たちが向き合っている状況を、自分たちの都合のよいように読み替えようとするからである。

すなわち、大地震が起こったことを契機として、震災前から生じていた諸問題がいつそう差し迫ってきたと考えるのではなく、それを契機に「震災前の状況が完全にリセットされた！」と強引に解釈してしまうのである。そのように読み替えた人々は、震災前の状況について思考停止に陥る一方、「新しい未来が到来するかもしれない」と期待しようとする（「ほのかに」かもしれない）。

今般の大震災後も、政策論議で、メディアで、前述の自然な考え方はタブー視され、封印されたといつてよい。確かに、ある考え方がたとえ合理的なものであっても、多くの人々の感情を逆なでするものであれば、その考え方は社会に浸透しにくい。特に、大地震の直後に、被災した東北の人々に向かって前述の考え方を語りかけるのは、たとえ相応の配慮が



あったとしても、非常に難しいことであった。

しかし、どんなに受け入れがたい状況であっても、その状況に向き合わないままに、さまざまな政策を

講じていくと、政策効果が生まれにくい

ばかりか、その副作用がおそろしく深刻なものになるであろう。

特に、「震災前からあった深刻な経済問題」が、「震災のために新たに生まれた経済問題」にすり替えられて、大規模な経済政策が発動されるのではないかと、私は懸念した。

こうした懸念は、関東大震災後の経済政策の失敗とも重なるところがあった。関東大震災後、斬新な都市計画は都心の大地主たちの反対で頓挫した。一方、公的信用や日本銀行によって支えられた莫大な資金は、大震災で直接的なダメージを受けた企業だけでなく、大震災前から収益性が芳しくなかった企業にも向けられた。採算を維持できない企業への融資は、当然ながら焦げ付いて、昭和金融恐慌の一因ともなった。

今般の震災からの復興においても、実行されるべき構造改革が既得権益を有する人々によって阻まれないであろうか。震災前から深刻な構造問題を抱えていた事業に対して、資金が湯水のごとく投じられるようなことにならないであろうか。私たちは、関東大震災後に大失敗した経済政策の二の舞を演じることにならないであろうか。そう思うと、不安ばかりが募った。

## 統計数字を持って現場を訪れてみた

今般の震災の実情が明らかにされるにつれて、上述のような懸念にいつそうさいなまれた。しかし、ゴールドデンウィーク直後に中学時代の同級生の吉岡達也さんと飲みに行ったことが、一つの転機となった。彼が共同代表をしているNGO・ピースポートは、震災直後から石巻に入って大規模なボランティア活動を展開してきた。彼は、「いろいろと考える前に現場を見るべきだ」と私に石巻入りをすすめた。彼のアドバイスに従った私は、5月13・14日の丸2日を石巻で過ごすことにした。

「どうせなら」ということで、ピースポートの現地スタッフに無理をお願いして、ヘドロのかき出しと瓦礫の片付けの作業に半日加えてもらった。真剣に活動しているボランティアの人たちには本当に申し訳なかったが、あのような鼻を突いた悪臭、腕に粘りついたヘドロ、目をひどく傷めつけた粉塵の感触は、一生忘れないと思う。

石巻を訪問する前には、石巻市が開設しているウェブページの統計情報を用いながら、石巻経済の現況を若干長めのパースペクティブに置く作業を行っていた。本稿でも、その一端を紹介しようと思っている。なお、以下の記述は、5月26日に開催した一橋大学政



ヘドロのかき出し作業の休憩



策フォーラム「大震災からの復興を考える」での報告に基づいている。その際の詳細な資料と映像は、一橋大学のウェブページにアップされている<sup>1</sup>。

石巻の街を歩いてみると、鮮やかすぎるコントラストに圧倒された。太平洋沿岸や旧北上川沿いでは、空爆を受けたような荒涼たる風景が広がっていた。しかし、沿岸部や川沿いから数百メートル陸側に入ると、まったく違った風景が展開した。今回の大地震の特徴でもあるが、建物のほとんどは倒壊を免れていた。床上浸水をした家々も、ボランティアの助けを借りてヘドロがかき出されていた。避難してい

た人々の多くも徐々に家に戻り始め、街自体が着実に日常を取り戻そうとしていることを肌で感じた。

さらに内陸に向かうと、大地震や津波の爪痕を見つけ出すことさえ難しかった。ピースボートなどのボランティア団体がキャンプをしている石巻専修大学のグラウンド風景は、とりわけ印象的であった。東京や大阪からきた人々は、風呂にも入らず、自炊をしながら、日々、ボランティア活動に汗を流していた。その一方で、地元若者は地元の大学に通い、グラウンドで陸上競技に汗を流していた。

こうした風景の多様性を肌で感じられたことが、私には何よりも収穫であった。東京に住む私たちは、大津波で壊滅的な被害を受けた日本製紙石巻工場の写真から受ける強烈な印象だけで、大胆な経済政策を発想してしまいがちだったからである。

## 高台・内陸移転の夢と現実

甚大な津波被害から構想された政策の典型は、高台や内陸への移転計画であろう。石巻市も、5月上旬に『石巻の都市基盤復興に向けて』において同様の都市計画を市民に対して提案した。

同計画では、津波被害が甚大であった沿岸部や旧北上川沿いを住居ゾーンから外し、工業ゾーン、公園ゾーン、水産加工ゾーンとした。住居ゾーンは、より内陸に設けられている。一方、高台移転も提案されているが、具体的なゾーンは示されていない。旧市内の東側に位置する牧山と呼ばれている丘陵地が高台造成の候補地となるのであるのか。

こうした都市計画を視野に置いている石巻市は、本年11月まで、建築基準法や特別法に基づいて津波被害が甚大だった地域に対して建築制限を課してい

<sup>1</sup> <http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2011/0603.html>

復興計画ゾーニング



石巻市ホームページからの転載  
[http://www.city.ishinomaki.lg.jp/mpsdata/web/7360/hukkouhousin\\_tatakidai.pdf](http://www.city.ishinomaki.lg.jp/mpsdata/web/7360/hukkouhousin_tatakidai.pdf)

大震災からの  
復興を  
考える  
1



る。建築制限が課せられた地域では、建て替えばかりでなく、増改築も厳しく制限される。

しかし、移転先の用地はおろか、仮設住宅の用地さえ確保するのが難航しているのが実情のようだ。5月中旬時点では、8千戸以上必要とされる仮設住宅を建築するためには、旧市内ではままならず、新市内の北のほうまで用地を確保せざるをえない見通しであった。

このように行政当局が用地確保に奔走しているにもかかわらず、沿岸部で被災した人々は、遠方の仮設住宅にも、内陸・高台への移転にも冷ややかだといわれている。そうまでするのであれば、危険と不便を覚悟で1階部分が壊れた自宅の2階に住むほうがまだと考えている人たちも多い。

ただ、石巻の街を歩き回った私には、地元自治体の現状判断や地元住民の感情をどうしても理解することができなかつた。石巻のどの地域をとっても、過密感などまったくなかつたからである。

石巻市の人口は、1980年代初頭に18万5千人を超えたところでピークとなって、その後、急速に低下していく。2000年代に17万人を割り、震災直前は16万人に減少していた。多くの若・中年層が流出した結果、人口高齢化も著しい。

新しく造成した宅地にも、空地が目立つ。一見、建物の過密感がある市の中心部も、商業地の郊外化に伴って、飲食店を除けば店を閉めているところが多い。少し内陸部に行けば、広大な農地が広がっている。

要するに、土地の絶対量が不足しているのではなく、さまざまな事情から土地の有効利用が妨げられているのである。すでに住んでいる住民が空地への仮設住宅建設に違和感を持っているのかもしれない。農家が宅地への用途転換に抵抗感を持っているのか

もしれない。あるいは、中心市街地の地主は、そもそも土地の有効活用には不熱心だったのかもしれない。

しかし、石巻市の将来を見据えれば、議会や行政が中心となって、懸命に市民の間の利害調整を行い、すでにある土地の有効利用を図っていくしか途がないのではないだろうか。無理矢理に莫大な資金を投じて、遠方に仮設住宅を設け、丘陵地を造成しても、誰も住まない場所ができるだけである。

## 産業の復興も時間をかけてみてはどうだろうか

工業、商業、農業、漁業などの復興も、拙速は避けるべきであろう。たとえば、漁業の場合、津波被害を受けた漁港の多くは、その再開を急いでいる。しかし、冷蔵施設や貯蔵施設もままに、漁港整備も十分でないままに、魚市場も仮設のまま、漁港を再開するのは、作業の安全や食の安全の面でリスクがあまりに大きくはないであろうか。

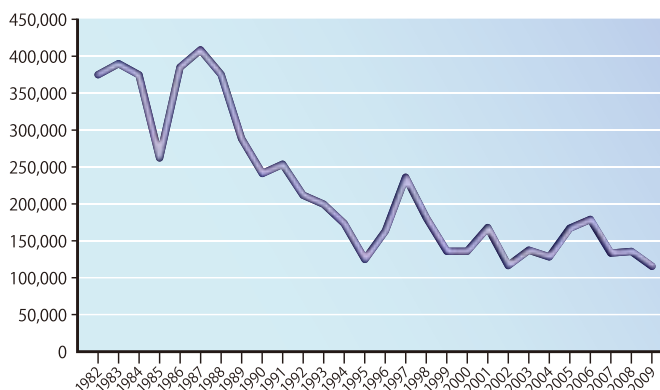
また、海底の地殻変動が著しく、瓦礫などに含まれる有害物質が海洋へ流れ出て、放射性物質が福島第一原発から放出されていることを鑑みると、大規模な海洋調査が本格的な漁港再開の大前提である。

実は、漁業こそが、旧に復することがいかに横暴な企みなのかを熟慮しなければならない産業の筆頭格である。

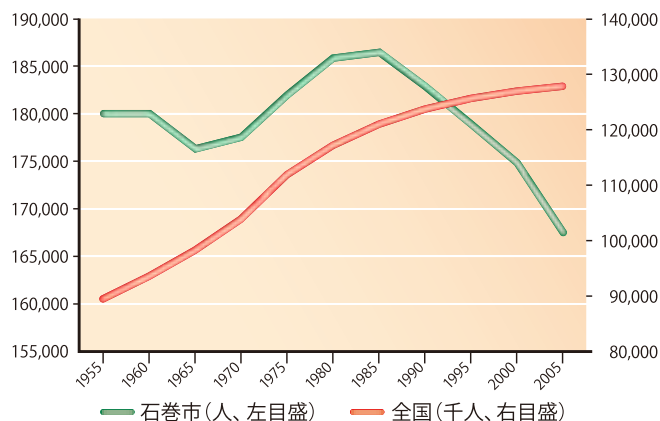
石巻市の水産業就業人口は、1970年に1万人に達していたが、2000年代には4千人を下回った。石巻市にある漁港の水揚げ量は、1980年代半ばに40万トンの水準であったものが、今では15万トンを下回る水準で推移している。

現在の漁業関係の施設が1970年代、1980

石巻水揚げ量 (トン)



人口の推移



年代当時の漁業規模に見合ったものだと考えると、漁業施設は、広い地域の漁港の間で集約を進める必要がある。また、自営業的な漁業従事者は、資金調達にも限界があることから、資金調達力のある企業体に漁業権を譲渡し、その企業の従業員として働くという選択も迫られるであろう。

漁業の集約を進めないままに、漁協が復旧に向けて積極的に融資すれば、採算性の乏しい企業への融資と同様、資金はたちまち焦げ付いてしまう。

## 優れた殿しんがりとしてのリーダー

経済学的な観点からすると、今般の震災で住民や企業が石巻からいっそう流出するのは、やむをえない面がある。

震災前は、たとえ過剰気味であったとしても、旧ふるい住居や工場の建設費の大半は返済し終えていた。だからこそ、住民は低賃金であってもそこに住み続けることができ、企業は低生産性であっても、低賃金にも支えられて採算をどうにか保つことができた。

しかし、大津波で住居や工場が消失して、高額な

再建費を負担しなければならなくなると、住み続けることも、工場の操業を継続することも難しくなってしまう。いわんや、用地取得費の追加負担など、論外であろう。その結果、住民も、企業も、当該地域から出て行ってしまふ。

住民や企業に対して莫大な資金を貸し付けて、こうした不可避的なダウンサイジングを無理矢理に防ごうとすれば、いっそう悲惨なことが起きるであろう。返済能力のない経済主体への融資は、かならずや、焦げ付いてしまふからである。

融資の大半が不良債権化して大損失を被った地方金融機関、漁協や農協を、公的資金注入や日銀貸付で穴埋めしようとすれば、最終的な負担は国民に転嫁されていく。すなわち、関東大震災後の経済政策の失敗を繰り返すことになりかねない。

あらゆる経済的な側面で縮小せざるをえない現実を受け止めるのは非常に困難なことであるし、経済的な縮小を前提としたさまざまな利害調整を実現していくのは至難の業かもしれない。

しかし、現在の経済規模を思い切ってコンパクトにするのは、そうすることによって将来も持続可能な経済の基礎を築く作業である。いわば「縮んで伸

びる」という発想で現在の状況をとらえれば、前向きに考えることができるのではないだろうか。

大震災を契機に理想的なリーダー像についてさまざまな議論が展開されたが、「縮んで伸びる」という発想に立てば、軍が撤退するに際して優れた殿しんがりを務められるようなリーダーこそ、時代にふさわしいのではないだろうか。もしかすると、東日本の復興だけでなく、日本経済の再建にも、そのような殿しんがり型リーダーが必要なのかもしれない。

## 大震災からの 復興を 考える 1



# 大震災からの復興を 考える

## 2

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、5月26日、一橋大学政策フォーラム・公開討論会「大震災からの復興を考える」を開催しました。本論文は、同フォーラムにて講演をした経済学研究所佐藤主光教授がHQ用に上梓したものです。



## 東日本大震災復興に向けた8カ条

経済学研究所 国際・公共政策大学院教授

佐藤主光

### 1 復興のビジョン

6月20日、震災復興を担う組織や財源など基本的な枠組みを定めた復興基本法が民主、自民、公明3党な

どの賛成多数で可決、成立した。復興の基本方針に関する企画立案、総合調整を担う復興対策本部を内閣府に設置（本部長＝首相）するとともに、地方機関として現地対策本部を置く。従来の復興構想会議は復興対策本部に組み込む。また、原子力発電所事故による災害を受けた地域の復興に関し、本部に有識者で構成される合議制の機関を置くことができるものとされる。さらに、自民党・公明党との修正協議を経て「復興庁」を新たな官庁として設けることになった。復興に向けた「器」（組織）が整いつつある。このほか、復興財源を確保するための国債「復興債」の発行や被災地域の「復興特区」指定も盛り込まれている。

復興構想会議は「第1次提言素案」として、復興費用のため国債を発行した場合、償還財源のため所得、消費、法人税といった「基幹税」の増税を検討すべき

とする方針を打ち出した。その下部組織の「検討部会」が、震災に伴う復旧・復興費を阪神淡路大震災の実績をベースに14・1兆から20兆円と試算しており、第1次補正予算4兆円を差し引くと、第2次以降の補正予算案は10兆円を超える規模の支出が発生することに拠る。

我々が直面しているのは、16兆円から25兆円と試算される直接被害（第1次災害）からの回復に加えて、間接的な被害、すなわち「第2次災害」（電力不足・サプライチェーンの寸断）、や「第3次災害」（風評被害・日本経済構造の毀損等）への対応である。震災の影響が長期化・構造化するならば、企業や投資家の「日本外し」、「日本離れ」が助長されるリスクがある。今日の我が国のように経済力が低下局面にあるなか、震災を契機に国際競争力・市場を失うことになるかもしれない。もつとも、サプライチェーンの寸断で年内の正常化が懸念されていた自動車の国内生産は「世界が驚く」復旧ペースの加速で7月までに通常レベルまで回復した。市場の自律的回復メカニズムが働いていたといえる。他方、政局は混迷が続く。むしろ、政治が日本経済の不確実性要素となってきた。

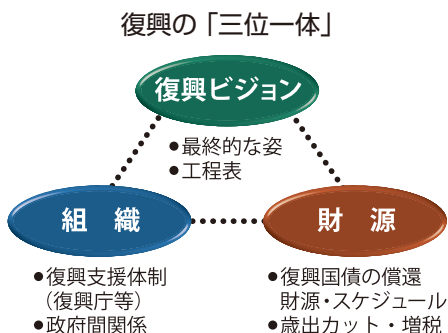
支援の線引き・優先順位を決定するためにも、震災復

## 2 日本の宿題

本書は震災復興を震災前に戻すだけの一時的な措置としてではなく、新たな経済成長・発展につなげる契機ととらえる。

興のビジョン・プランが必要だ。たとえば、東北地方において産業集積地の付加価値が高い産業を振興させていくというビジョンならば、それを担う企業を支援すればよい。また、ビジョンとして農業の集約・大規模化を取り上げるならば、低利融資や税の優遇措置の対象は大規模経営を推進する農家（組合）・企業が軸となる。零細農家が零細なままで農業を続けるならば、経済政策としての支援は行わない。代わって、社会政策でもって所得を保障する措置を講じる。換言すれば、明確なビジョンがないと支援にメリハリが付かない。

震災復興にあたっては、財源（増税）先行、あるいは復興庁など組織論に終始してきたとの批判が多い。たしかに日本の将来像と工程表（ロードマップ）を含めた復興のビジョンがなければ、財源も組織も意味をなさない。他方、ビジョンを支える財源と実効性（企画・執行）を担保する組織がなければ、ビジョンも絵に描いた餅に過ぎない。ここで財源の内訳は短期的には復興国債の発行や歳出カット、中長期的には償還財源等に充てる復興税など時間軸でもってとらえられる。組織には復興庁のほか、国と地方との役割分担、被災自治体と被災地外自治体との水平的連携（人材の提供等）の在り方を含む。復興交付金を活用した被災地の構造改革の促進、将来の道州制（復興庁の州政府化）も視野に入れる。よって、ビジョンと財源、組織は復興の三位一体といえる。どれ一つを欠いても復興は頓挫するだろう。



震災以前から我が国では課題が山積してきた。国・地方の財政悪化、社会の高齢化、グローバル経済への対応などである。いずれも「先送り」を繰り返して今回の震災に至った経緯がある。そもそも、復興財源として増税が取り沙汰されるのも、「震災以前から日本が厳しい財政状況に直面している」からには可ならない。震災復興等、非常時における「政府の各種の積極的施策が成功するかどうかは、中長期的な財政バランスの維持に関して政府への信認が維持されているかどうかにかかっている」（白川総裁発言「ロイター」〈平成23年5月28日〉）ともされる。震災復興と財政の健全性は切り離せないということだ。従って、「復興計画は財政健全化の道筋のなかに描くものとする」ことが求められる。具体的には「税制・社会保障の一体改革や成長戦略などの諸改革も、復興計画と整合性のとれた形で遅滞なく実行する」ことである（経済同友会〈平成23年4月6日〉）。

震災は日本経済・社会の「危機」ではなく、「停滞の20年」を打破する「機会」になりうる。「日本は貿易自由化に備えながら震災復興も後押しする経済活性化策を打ち出すべき」であり、TPPへの参加をその軸ととらえる向きもある（「読売新聞」社説〈平成23年5月15日〉）。農業の大規模化と合わせて「日本でのモノ作りが不利にならないよう、TPPを活用して競争力を強化しなければならない」。震災以前から新興国

の台頭に伴うエネルギー需要の高まりによって、原油価格の上昇傾向が続いていた。地球温暖化問題への取り組みも求められてきた。我が国は環境税や排出量取引制度に加え、原子力発電の比重を高めることで、「2020年までに地球温暖化ガスの排出量を1990年比で20%削減する」（鳩山首相〈当時〉）ことで対処する方針だったが、福島第一原発事故で頓挫した格好だ。とはいえ、エネルギー消費の抑制は我が国に限らず、世界的な課題である。世界に先駆けて、新たなエネルギー対策と技術の確立に取り組み、成功を収めることができれば、省エネ社会のモデルとなるだけでなく、その技術とノウハウは新たな輸出分野にもなるかもしれない。無論、成功が確実なわけではないが、何もしないで先送りを続ければ、我が国の経済はいずれ行き詰まる。

国内外で経済がダイナミックに変化しているなか、現状は維持可能ではないことを理解するべきだ。原形復旧に終始したり、改革を先送りしたりしても、日本経済や（過疎化・高齢化等）被災地が抱えた構造問題が自然治癒することはない。時間がたつほど、問題はいつそう深刻化することになるだろう。とはいえ、構造改革にはつねに総論賛成、各論反対が付きまとう。各論で反対が起きているのは、利害当事者（ステイクホルダー）等が自らの既得権益に固執するからにはかならない。この利害当事者は政治家や官僚、利益団体に限らない。一般高齢者は年金など

### 危機を機会へ

危機	機会
原発事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー政策の転換</li> <li>安全技術の開発</li> </ul>
電力不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力自由化と電力の新規事業者の参入</li> <li>省エネルギー技術・社会の構築</li> </ul>
震災による被災地の損害	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい産業・企業の育成</li> <li>既存企業の再編・競争力向上</li> </ul>



社会保障サービスに対して既得権益を持つ。諸外国と比べても低い課税は（税を負担しないという形での）納税者の既得権益だ。各利害当事者は、自らの既得権益はそのままに、ほかの利害当事者が自発的に既得権益を諦めて財政再建が進むことを当てにする（他人の犠牲に「ただ乗り」する）だろう。一方、自身は各論反対を続ける（権益に固執する）。これは「チキンゲーム」（我慢比べ）に相当する。結果、財政再建は先送りされ、状況はいっそう悪化していく。この政治ゲームは「買い溜め」にも類似する。ここでは買い溜めが既得権益化にあたり、皆が買い溜めに走ることに拠る物不足が財源不足であり、これを埋めるための財政赤字の累積である。

### 3 対話としての復興

震災復興は市場、国民（納税者）、被災者に対して「メッセージ性」を持つ。復興政策に対する誤解や不信を招かないためにも、その発信には慎重を期さなければならぬ。無論、メッセージは実効性を伴う必要がある。実現性を担保するような政策を合わせて実施することだ。さもなければ、メッセージは信認を欠く。以下ではこのメッセージに係る課題を取り上げていく。

その第1の課題は、「市場へのメッセージ」である。震災国債については日銀引受を求める向きもある。しかし、日本国債をみる市場の目は厳しい。米格付け会社（ムーディーズ）は日本国債を格下げ方向で見直すと発表している。東日本震災で財政負担が増え、経済の先行きも不透明になるなか、財政赤字削減が難しくなったことなどが理由に挙げられる（「朝日新聞」〈平成23年5月31日〉）。

このうえ、日銀引受のように財政規律に欠く借金は、国債に対する市場の信認を損なうリスクがある。日本は財政赤字をコントロールできない、財政再建を諦めたというメッセージで市場に受け取られるならば、震災の危機が財政危機に連鎖しかねない。「政府の支払い能力に対する信認は突如低下し長期金利が急騰する可能性がある」（白川総裁談）。「オオカミ少年」（＝財政危機の警鐘）の後に本当にオオカミ（＝財政危機）はくるかもしれない。いずれにせよ、政府が市場に優位する、官僚が指導すれば、政治家が恫喝すれば抑え付けられる時代はすでに過ぎていく。「失われた10年」やリーマン・ショックに際して政府は多

額の借金を重ねたが金利の高騰はなかったから今回も問題はない（「オオカミはこない」と言うのも、いかにも過去の経験を引きずる我が国らしい認識だが、楽観的過ぎよう。政府は、市場の動向を注視しながら、財政の健全性について慎重にメッセージを送り続けなければならない。

第2は、「国民へのメッセージ」である。復興に要する費用は多額、かつ長期にわたる。当面は国債で賄うとしても、その元利償還費を含めて、いずれ歳出のロット、あるいは増税という形で国民の負担になるはずだ。歳出のなかでも子ども手当についてはバラマキとの批判が多く、復興財源を捻出するため、その廃止が議論されている。しかし、震災復興の負担を育児世帯だけが負うべき理由はないだろう。そもそも、バラマキは子ども手当に限ったことではない。地方への補助金、公共事業、社会保障のなかにもバラマキ的で、震災復興に比べて優先度が低い政策もある。歳出の見直

## 大震災からの復興を 考える 2



しに聖域を設けるべきではない。さもなければ歳出カ  
ットは既得権益を温存した「切り易いところから切る  
もので、不公平」というメッセージを国民に伝えるこ  
とになってしまっただろう。

第3は「被災者へのメッセージ」である。言うまで  
もなく、被災者の生活再建を支援することは国民の生  
命と財産を守るべき政府の責務である。しかし、同じ  
被災者でも生活再建の能力は所得水準や年齢によつて  
異なるだろう。特に年金生活を送る高齢者の場合、住  
宅再建など災害以前の生活水準を取り戻すことは非常  
に困難と考えられる。一方、勤労世帯であれば、当面  
の生活資金の貸与や二重ローン対策など最低限の措置  
を施せば、地震保険の購入や自助努力によつて生活を  
再建する見通しもある。つまり、すべての被災者が等  
しく弱者というわけではない。

限られた財源のなかで、確実な救済を施すためには、  
(応急仮設住宅の入居者に留まらず)すべての被災者の  
実態把握を速やかに行つたうえで、救済の優先順位を  
付けていく必要がある。つまり、自立の最も困難なタ  
イプの被災者を重点的に支援するのである。具体的に  
は高齢者のなかでも低所得層については今後、住宅を  
再建してローンを払いきる見込みが薄いならば、優先  
的に公営住宅に受け入れていく。災害で職を失つた者  
に対しては、仕事の斡旋を行い、早い段階で生活的に  
自立できる環境を整備する。もともと低所得者で今後  
とも高い収入が期待できないような被災者は、被災者  
として特別に優遇するのではなく、(他の低所得者同  
様)生活保護の対象者として早い段階で平時のセイフ  
ティーネットでカバーすればよい。

震災復興を通じて政府は市場、国民(納税者)、被災  
者の三者と対話をしていかなければならない。市場に  
は「国債の信頼は揺るがない」というメッセージを、

国民には「歳出のカットには聖域はなく公平であり、  
増税は国民全員参加で震災復興を進めるため」という  
メッセージを、そして被災者には「自立困難な災害弱  
者にはしっかりと支援を行いつつ、メリハリを持  
たせる」というメッセージを送り続けることだ。政府  
の言うことに信認がない、誤解と混乱を招くようでは、  
政府と市場、国民、被災者との距離はますます遠ざか  
つてしまいかねない(福島第一原発事故の収拾を巡っ  
て、安全を訴える政府のメッセージの信びよう性が疑  
われるなど、かえつて距離が広がっていることが懸念  
される)。

## 4 震災復興の8カ条

こうした議論を踏まえて、本節では震災復興の「原  
則」を次の8条にまとめる。

### 【第1条】対話としての復興政策

政府は震災復興プランの立案実施、復興財源の確保  
において被災者、納税者、市場との対話(メッセージ  
の発信)を意識して努める。

(1) 市場に対しては、財政規律を弛緩させないという  
メッセージを(復興税による元利償還など)信認の伴  
う形で出し続ける。

(2) 被災者には、多様なニーズに応じた支援の内容、  
復旧・復興の工程表を明らかにし彼等の生活・住宅再  
建における予見可能性を高めるとともに、過度な期  
待・不安を煽らない(できること・できないことを明  
確化する)。

(3) 納税者に対しては復興財源の確保に伴う増税の趣  
旨を明らかにして理解を求める。

### 【第2条】復興から新しいビジョンへ

「新しい日本を創る」というブランド・ビジョンを持っ  
て、被災地の復興のみならず、我が国の将来像を示す。

(1) 現在の危機への理解を国民と共有するとともに、  
復興への努力・負担を通じた将来への希望(新たな日本  
像)を示す。

(2) 復興のビジョンと工程表を明らかにする(実効性  
のある「希望」を与える)。

(3) 震災の危機を経済危機、財政危機に連鎖させない  
ための措置を講じる。「危機」を「機会」に転じる経済  
財政構造改革に着手、復興を契機に新たな経済・社会環  
境に対応すべく、震災復興を経済・財政の構造改革につ  
なげる。

### 【第3条】復興庁の設立と 「一国多制度」型の地方分権

地方分権改革は、全国一律な分権改革であるという  
意味において、極めて中央集権的だった。むしろ、自  
立志向が強かつ自立できる体力のある地方自治体には  
自立を促す一方、被災地へは国の復興庁を通じて体  
系的に支援していく。「一国多制度」のアプローチを取  
る。復興庁の創設は縦割り行政など平時の制度の不備  
を克服することがねらいだ(よつて中央官庁からの権  
限移譲が前提となる)。合わせて将来の東北州政府につ  
なげていく。

### 【第4条】被災地の構造改革

農業の構造改革と同時に、新規産業企業の育成を図  
る。高リスク地域に関しては、住民の集団移転といつ  
た地域再編を進める。被災地が縮小均衡に陥らないよ  
う構造改革を進めて持続的な発展につなげていく。

(1) 復旧・復興事業においては地元の雇用を拡大し、人材の流出を抑える。

(2) 自立できる被災者には自立の機会（雇用・融資）を与える一方、長期的支援を要する災害弱者への支援を徹底する。

(3) 既存産業・農業の近代化・効率化を進め、競争力を高めるほか、新規企業・新規産業の育成を図る。

(4) 今後とも災害リスクの高い、過疎の進んだ地域からの撤退を含め、地域（居住地域）の再編成を行う。

(5) 被災地を「構造改革特区」に指定するなど、規制緩和・税の減免を行い、新たな成長センターを支援する。

### 【第5条】財政悪化への歯止め

日銀引き受けや埋蔵金の取り崩しといった会計的操作による財源捻出は、市場から財政規律の弛緩を疑われかねない。震災が財政危機に連鎖することを

回避するためにも、財政規律を維持する。

### 【第6条】税財政改革の実施

政策の費用対効果や優先順位に基づいた予算の配分ルールをつくる。臨時増税を契機に課税ベースの見直し、税収確保・再分配機能の充実など税制の抜本改革につなげていくとともに、国民の側も税を社会参加の一環という意識転換をする。

### 【第7条】土地の買い上げなどに民間資金を活用する

規制緩和（特区の指定）、明確な復興プランなどの環境整備を行ったうえで、被災地の再開発に事業運営権方式を含むPFI等民間資金とノウハウを積極的に利用する。

### 【第8条】未来の震災への備え

インフラや建物の耐震化だけでなく、サプライチェーンの断絶に備えた事業継続計画（BCM）の作成やリスク管理の考え方を普及する必要がある。

(1) 自治体による防災対策を徹底する。

(2) インフラ更新・地域の再編成を含めて、災害に強い国土の発展に努める。

(3) 自助努力・事前の備えとして住宅の耐震化・地震保険の加入率向上を図る。

(4) サプライチェーンの寸断に備えた企業のBCMの普及に努める。

(5) 東日本大震災の経験を活かした、安全技術の開発を進めて、新たな輸出分野とする。

(6) 被災時の電力等エネルギー確保のため電力市場等の規制改革に着手する（市場原理の活用なしに安定供給はありえない）。

## 5 おわりに

東日本大震災から7カ月が過ぎた。その間、迅速なサプライチェーンの回復など日本企業の「底力」がみられたり、被災地への義援金やボランティア活動など国民全体の善意と連帯が促されたりした。他方、震災復興に向けた政治の動きは鈍いままである。復興財源の確保を巡る議論は自民党など野党が4K（無駄な支出）と称する子ども手当等民主党マニフェストの見直しへ、福島第一原発事故の収束は原子力保安院やそれを管轄する経済産業省の官僚・隠ぺい体質批判へと「政局化」していった。菅政権の脱原発方針も、我が国の新たなエネルギー政策に対する道筋を付けるには程遠い。未曾有の災害であるにもかかわらず、政治は利害関係を超えて団結することもできないままである。企業や国民、何よりも被災者の頑張りには称賛に値するとはいえず、それを当てにした震災復興では先行きが思いやられる。

東日本大震災は我が国にとって歴史的な転換点となり得るだろう。この惨事と犠牲を我が国の経済・社会の新たな発展につなげるか、財政・経済危機（産業の空洞化等）へと事態を悪化させこのまま衰退をもたらすかは、我々の選択と行動にかかっている。我々が「しがらみ」や「既得権益」に固執して、厳しい現実から目を背け続けるならば、我が国にとって歴史的な汚点となるに違いない。そのツケを負わされる後世の人々は我々を決して許さないだろう。震災復興は現在を生きる人々のためだけでなく、むしろ、この国を未来につなげていくためのものなのだ。であれば、可能な限り後世の人々により社会・経済を残すことが、我々の責務ではないだろうか。



## 大震災からの復興を 考える 2

東日本大震災に遭遇した  
老舗蒲鉾会社の社長が語る  
震災体験と復興への道のり

# 地球の風

# 地域の風

株式会社佐々直  
代表取締役  
佐々木直哉氏



## 地震から約1時間後 津波が押し寄せ 町を呑み込んだ

宮城県名取市の閑上地区が津波に襲われたのは、地震発生から約1時間後のことだった。NHKでは、閑上上空から津波を追って撮り続けているヘリコプター映像を、リアルタイムで放送した。

猛スピードで押し寄せる真っ黒な津波が、一帯を一気に呑み込んで進んでいく。画面の左では、津波が名取川の水流を押し上げつつ、渦を巻いてさかのぼっていく。閑上地区全域を浚い<sup>くわ</sup>つした津波は、やがて高い土手にぶつかり、しぶきを上げてやっと停止した。土手の上の道路には、数台のクルマが止まっていた。この間、恐らく10分に満たなかったであろう。

地震発生時、佐々木直哉さんは、海岸から1キロメートルほどのところにある自宅にいた。

「自宅で遅い昼食をとっていました。昼食といっても朝昼兼用で、これはいつものことです」

佐々木さんは、朝食をとる間もないだけでなく、土日も休めないほど多忙な日々を送っていた。

「揺れは、かなり長かったですね。収まったところで工場へ駆けつけた。従業員

2011年3月11日午後2時46分18秒、東北地方で非常に強い地震が起こった。

震源は、宮城県牡鹿半島の東南東沖約130キロメートル、深さ約24キロメートルの海底。

マグニチュードは観測史上最大の9.0を記録した。

続いて大津波が発生。岩手、宮城、福島3県を中心に、太平洋沿岸地域を次々に呑み込んでいった。

地震と津波による人的被害は、死者・行方不明者合計で、およそ2万人。「東日本大震災」である。

仙台市南方約10キロメートルにある名取市。市の東北端、太平洋と接する閑上地区に、

老舗蒲鉾会社「佐々直」の本店と拠点工場が「あった」。

「佐々直」の社長・佐々木直哉氏は、一橋大学のOB。

その佐々木氏に、震災の実体験と復興への道のりなどについてうかがった。

員は皆、外に出ていました。とにかく全員を帰したのですが、5人の従業員が津波で亡くなりました。残念であり無念なことです」

余震が続くなか、佐々木さんはラジオのニュースで、三陸の海岸に4メートルの津波がきていることを知った。

「だったらこっちにも1メートルか2メートルの津波がくるのではないか。いや、確実にくると思いました。まず、本店で残務整理をしていた数名の従業員を急ぎ帰宅させ、私は社屋の奥の棟の2階に避難。根拠はないのだけれど、ここなら安全と判断したのです」

避難中に津波に呑まれた人もかなりいることから、この判断は正しかったことになる。

「それは、結果的に」ということでね。もう少し津波が高かったら、どうなっていたかわからない。おそらく工場ごとやられていたのではないのでしょうか。周辺には大きな缶詰工場があったのですが、消滅していますから」

佐々木さんは運がよかったといえるのではないだろうか。実のところ津波は、佐々木さんが避難した本店工場全体を呑み込むほどの高さで押し寄せたのである。それを、本店の一部の建物が押しとどめてくれたのだ。鉄筋建築のその建物の1階部分は、鉄骨の骨組みを残すのみ。しかも骨組

みは、大きく傾いている前部だけしか残っていない。建物全体で津波を受け止めたことを如実に示している。周辺にあるのは、佐々木さんのいた本店工場だけである。

「ありえないことが目の前で起こっている。津波がやってきたとき、最初にこう思いました。入江（広浦）の向こうの砂浜には、防潮林がつくられています。最初、林の間からチョロチョロと海水が上がってきた。それが、たちまち林を越えてやってきた。入江に係留されていた何隻かの船が、津波に翻弄されてこちらへ流されてくる。そして津波に浚われながらどこかへ行ってしまいました」

防潮林は、根こそぎ<sup>えぐ</sup>取り取られた。佐々



閑上にある佐々直本店。手前にある建物が津波から奥の棟を守った。



地球の風 地域の風  
in Miyagi

木さんは、閉上の町が呑み込まれていく様子を呆然と見ているばかりだった。

「人智を超える、とはこのことかと……」  
こうした光景が、佐々木さんの記憶から消えることはないだろう。

宮城県ホームページによると、2011年8月5日現在、名取市の人的被害は、死者804名、行方不明者82名（収容遺体911名のうち名取市民は804名）である。「ほとんどは、閉上地区の人たちですね。住人約7100人のうち約830人が亡くなりました」と佐々木さんは教えてくれた。

## 2011年4月25日

### 東北新幹線復旧の日に 営業を再開

翌12日、水は引いた。だが佐々木さんに事業のことを考える余裕は、まだなかった。

「2週間ほどは、従業員などの安否確認、遺体安置所を回るなどで時間がすぎました」

事業について具体的な活動はできなかったが、再開へ向けてのプランは佐々木さんの頭のなかにあった。

「閉上地区の工場は、すべて壊滅状態。生産がいつ再開できるか、見通しはまったく立ちません。しかし……」

仙台市の南西部に位置する太白区。「仙台の奥座敷」として広く知られている秋保温泉も区内にある。その太白区を走る国道4号線の中田バイパスに「佐々直」は店舗を設けていた。本店から約5キロメートルの距離である。

「中田バイパス店には、休止中ではありませんが工場が併設されています。そこを活用すればある程度の生産量は確保できる。バイパス工場が残っていたのは、不幸中の幸いでした」

佐々木さんは、バイパス工場を再稼働させることにした。不足している設備の手配、製造ラインの組み換えなど、再稼働へ向けて山積する課題を早急に解決していかなければならない。佐々木さんは動き出した。

まず、4月13日と14日に工場の床工事を行い、次いで16日、原料の搬入を開始した。18日には製造に欠かせない機械が届いた。製造ラインの組み換え工事も急ピッチで進められていった。そして4月20日、試運転開始。翌21日には製造が始まった。工場の床工事を始めてから9日目という短期間で、再稼働を実現させたことになる。



震災後、中田バイパス店のライン増強のため、敷地内に急遽建てられた「手のひら蒲鉾」の新製造ライン。

を解雇せざるをえなかった。だが、生産再開にともない40人以上の再雇用を実現させることができた。

改めて言うまでもないが、自宅を失った佐々木さんは被災者である。3月11日以降、名取市内に住む2人の子息のアパートでの避難生活を経て、現在はやはり名取市内にマンションを借りて住んでいる。バイパス工場の再開作業は、このような避難生活のなかで進められたのである。

「去年までの年間売上高は、12億円。今年はその3分の1までいくかどうかでしょう」  
かなり厳しい状況である。

### 看板商品

#### 「手のひら蒲鉾」は 笹かまぼこの ルーツといわれている

「佐々直」の創業は、1916年（大正5年）。蒲鉾業界の老舗であり、佐々木さんは3代目である。以下、その来歴について、佐々木さんの話を交えつつ記述していく。

かつて閉上港は仙台藩伊達家の直轄漁港として繁栄した。水揚げされる魚種は豊富であり、とりわけ平目は「宝庫」とされるほどよく獲れたという。「佐々直」

の先祖は、慶応年間というから江戸時代最末期より閑上で海産物を商っていた。150年近く前のことになる。

「1890年（明治23年）ごろ、平目の保存加工に注目した高橋清治（初代佐々木直治の祖父）が『手のひら蒲鉾』という商品を開発。これが笹かまぼこのルーツともいわれています」

「手のひら蒲鉾」は、「佐々直」の看板商品である。佐々木さんは「手のひら蒲鉾」の販路拡大に力を入れ、仙台三越、仙台駅、仙台空港でも販売し、好評を博している。

「手のひら蒲鉾」については、「佐々直」のホームページにこう書かれている。

「先達より今に伝えられし、手づくりの技と味。より一層の『旨さ』を求め、素材をさらに吟味し、一枚一枚厚みを増してこしらえて、炭火でじっくりと時間を掛けて焼き上げております。まさに伝統を超えた逸品です」

「手のひら蒲鉾」のバイパス工場での製造再開は、2011年6月25日であった。

「佐々直」では、このほか、「チーズ入」「葱入」「牛たん入」「燻製かまど造り」「ミニサイズ（せんだい小笹）」の各種笹かまぼこ、「揚かまぼこ」「おとうふかまぼこ」など多彩な商品を製造販売していた（現在は生産ラインの関係で、「チーズ入」「牛たん入」「手のひら蒲鉾」のみ販売。いずれも消費者の評価は高い。だが、その評価



がジレンマを生み出している。

「バイパス工場だけの稼働なので、生産量はピーク時の30%程度。これではじゅうぶんな

営業活動が行えません。注文をもらっても供給ができない。つくりさえすれば売れるのはわかっているのですが」

佐々木さんには今後の展望も浮かがったのだが、それは後述する。

## ボート部での活動が 大学生活で もつとも思い出深い

佐々木さんは、閑上生まれ、閑上育ちである。高校は、宮城県仙台第一高等学校

（宮城県では単に「二高」と呼ばれている）。

「ハンドボール部で練習に明け暮れていました。私はサブだったが、2年と3年の2度、インターハイの全国大会へ行きました。練習量はかなりのものでしたね」  
学業成績のほうは「悪かった」と苦笑する。

佐々木さんは、3年生の後半から受験勉強に取り組んだ。どうやら必死に勉強したらしい。

「伯父が戦前に一橋の専門部（東京商科大学商学専門部）を出ていて、それが志望の伏線になっていたのだと思います」

1965年（昭和40年）、佐々木さんは一橋大学法学部に入學した。ゼミは、当時の法学部長・植松正教授のゼミ。人気のあるゼミだった。

「大学に入ったから勉強しようと思っていました。だが、半年以上も受験勉強して

いると、運動したいという欲求が湧いてきた。どのクラブにしようかと迷った末、ボート部（端艇部）に入りました」

なぜ、ボート部だったのか。それには大きな声では言えない理由があった。

「実は、泳げなかったのです。生まれ育ったのが海のそばなのに泳げない。これは大変恥ずかしいことです。コンプレックスは大きかった」

当時は、「海で泳げばよい」ということだったのだろう。閑上の小中学校にはプールがなかった。しかし、佐々木さんがまだ幼いころ、港は遊泳禁止になってしまった。

「それでも皆は適当に泳いでいたのだが、祖母がどうしても許してくれなかった」  
かくして佐々木さんは、カナヅチのままボート部に入部したのである。

「泳ぎを覚え、真剣にボートをやろう。



「手のひら蒲鉾」は、職人が一つひとつ丁寧に成形し、炭火でじっくり焼く。佐々直伝統の逸品であり、人気が高い。



## 佐々直



中田バイパス店には、工場が併設されている。震災前は閉鎖を考慮していたらしいが、この工場があったお陰で復興の足がかりができた。



ボート部の同級生も上級生も、代々木のプールなどへ一緒に行って親切に泳ぎを教えてくれました」

泳ぎを覚えたのはもちろん、全日本選手権シングルスカルで優勝するなど、佐々木さんにとってボート部での活動は、大学時代で最も思い出深いものになった。

## 「佐々直」を継ぐため 三井物産を退職して 帰郷

1970年（昭和45年）、法学部を卒業した佐々木さんは、三井物産に入社。鉄鉱石部に配属になった。

佐々木さんは、4人きょうだいの2番目。しかも男は佐々木さんだけである。

「子どものころから、はつきり言われたわけではないが『家業を継ぐのが当然』という雰囲気でした。私もそうは思っていたものの、一方で『何とか避けられないだろうか』という、まあ反抗心のようなものがありました。東京の大学を選んだのも、反抗心の表れだったと思います」

三井物産勤務当時、「佐々直」は妹さんの夫が手伝ってくれていた。「妹夫婦に継いでもらえないかと、都合のよいことを考えたりしました」と佐々木さん。だが、やはり佐々木さんが継ぐべき運命にあったようだ。

「父が体調を崩したことを契機に、帰郷することにしました。三井物産勤務は6年間。心のどこかに『いずれは戻らなければならぬだろう』ということがあ

あったので、自然な流れだったのかもしれない」

帰郷は、1976年（昭和51年）のことだった。しかし、家業を継ぐ、つまり商売をすることが、最初からスムーズに運んだわけではない。

「商売のことは、まったくわからなかった。だから、思うような成果が出ない。商売をうまくやろうと思つて帰つてきたのだから、辛かった」

さらに辛かったのは、休みがまったく取れないことだった。

「勤めていたころは、土日が休み。平日とはまったく違うことができました。ところが帰つてみると、土日など関係なくつねに仕事がある。これが最も辛かった。もともと、慣れてしまうとなんともなくなりませんが」

家業を継いでから35年。商品も販路も従業員も増え、「佐々直」の経営は、ますます順調に推移してきた。そして突然、3月11日の大震災に襲われたのである。

## ボート部をはじめとして たくさんの方の 支援をいただいた

震災後、支援の手はすぐに伸ばされた。ことにボート部のネットワークは素早かった。

「同期の佐藤信弘君が、クルマに1000リットルのガソリンを積んで、東京からきてくれました。定期戦などで戦った東大ボート部のOBも見舞つてくれ、とて

## 地球の風 地域の風 in Miyagi



ボート部の後輩が義援金とともに送ってくれたオー。ボート部時代の仲間にはずいぶん励まされたと言、佐々木さん。

も嬉しかったですね」

また、現役ボート部の後輩たちがボランティアで駆けつけ、助けてくれた。

「私たちの学生時代は、ボランティアという活動そのものが知られていなかったのでも、もちろんやったことはありません。学生たちは真面目で、骨身を惜しまず助けてくれます。大したものだし、素晴らしい学生たちだと思いました」

義援金も多数寄せられたが、そのなかには勿論一橋大学ボート部OB・OG、三井物産鉄鉱石部、そして三井物産ボート部からのものもあったという。こうした支援を受けた佐々木さんは、復興に向かう気持ちも強めた。しかしそれは、イバラの道でもある。

「年内にもう一つ工場をつくりたい。だが、土地と資金の問題があり、まだ進んでいません。とにかく、商品を生産しないことには始まらない。たとえば、百貨店の中元・歳暮のパッケージ。今年は



2011年5月に開催された一橋大学第6回ホームカミングデーでは、ボート部の先輩と同期の人たちが当社のブースを設置してくれ、現役ボート部員たちが、笹かまぼこの販売と義援金募金のために活動してくれた。

どちらにも載せていません。来年の中元にはなんとか載せたい。そうしないと忘れられてしまいます」

「佐々直」の商品販売の比率は、スーパーなどへの卸、いわゆる「流通」で6割が占められている。震災後、生産量が少ないため、流通への商品供給が激減。「いつまでも棚を空けて待つていてくれるわけではないので、少しでも早く供給しなければならぬ」という現実がある。したがって佐々木さんにとって緊急の課題は、「つくりさえすれば売れる」商品の生産拡大。だから、一にも工場、二にも工場なのである。

## 災害復興の施策を とにかく急いで 実行してほしい

「復興に関する関東地区の意見は、なかなかまとまらないのが現状です。この地域はベッドタウン化が急速に進みまし



た。そうした新住民のほとんどは、水産業とは無関係。震災の影響で『ここにはもう住みたくない』という人も少なくありません。

一方、地元の水産加工業者も意見が一致しているわけではない。水産加工組合に加盟していたのは16社です。津波で、理事長を含む3人の組合員の方々が亡くなっている。すでに廃業してしまったところも7社あります。今後も廃業は増えるかもしれません。

水産加工業の復興とは、必ずしも閉上に生産拠点を新たに設けることではありません。原料は、地元の漁業衰退にともない、すべて輸入品で賄われています。だから、閉上に固執する必要はありません。意見がまとまらない大きな理由の一つです。

食品の製造は、衛生面の管理を厳しくしなければならぬので、仮設の工場だけでは限界があります。一刻も早く本格的な工場を作らなくてはなりません。だからといって、すぐさま元の閉上で復興を図ることも難しい。水産加工工場に予定されている地区は財源がない為、地盤の高上げも予定されていません。今のままでは安全面で問題があります。さらに土地の区画整理事業には、かなりの時間がかかることが予想されます。もちろん閉上に戻りたいという強い気持ちはあります。しかし、今の状況から判断すると、他の地域に工場を建てて事業復興を目指すことのほうが遥かに現実的なのです。



#### 佐々木直哉（ささき・なおや）

1946年、宮城県名取市閉上に生まれる。1970年、一橋大学法学部卒業。6年間の三井物産勤務を経て、1976年、家業の蒲鉾製造・販売会社「佐々直」を継ぐため帰郷。看板商品「手のひら蒲鉾」は、笹かまぼこのルーツともされている。2011年3月11日、東日本大震災で被災。生産拠点をすべて失うが、1か月半後、休止していた工場生産を再開。  
【佐々直ホームページ】 <http://www.sasanao.co.jp/>

大きな被害を受けた地域に共通するのは、『とにかく復興のための施策を、1分1秒でも早く実行してほしい』ということです。

今、私たちが最も困っているのは、職の問題。多くの会社が壊滅的といっているほど被害を被っている。仕事がない。私のところでも、再雇用は半分以上にとどまっており、まだ50人が待機状態にあります。現在は失業保険でしのいでいますが、それが切れれば生活保護に頼らざるをえなくなる人も多数にのぼることでしょう。結局、ズルズルと国や県市のお金が出ていくようになります。

私たちが工場を新設すると、二重ローンが発生します。しかし、閉上の水産加工業者の場合、二重ローンになったとしても、その総額は決して大きなものではありません。今すぐ復興資金を投入してもらえれば、短期間で稼働が可能。雇用も回復します。そのほうがかえって多くの税金を使わずにすむはずですよ。

これは閉上地区の事業者に限ったことではなく、同じ問題を抱えている地域が数多くあります。一刻も早くそうした地域の雇用を回復させる。繰り返しますが、これがお金の有効な使い方だと思います」

佐々木さんは、「生まれ育った町が消えてしまうのは悲しい。だから閉上を復興させたい気持ちはある」と言う。そのために求められるのは何か。佐々木さんが語りつくしてくれている。

# 身近な問題から国際問題まで

## 人と社会の関わりへの見方・考え方を磨く

経済学部の科目には、100番台〜400番台の番号が振られていて、授業内容のレベルが明確に示されています。

それは体系的な経済学の理論と分析ツールを段階的に身につけられるようにするためです。

経済学部は講義とゼミナールを両輪として、人と社会の関わりに対する経済学的な見方・考え方を徹底的に磨くことを目指しています。



経済学研究科長・経済学部長

蓼沼宏一

Koichi Tadenuma

### 経済学的な考え方

「経済」とは、この世界の中で私たちの生活に最も身近な、そして一日として欠かすことのできない活動です。経済学は、人間生活に深く関わる経済の仕組みを明らかにし、人々がよりよい生活を営むことができるように、社会経済システムの一層の改善を目指す学問です。

東日本大震災を経験したわが国は、社会経済システムの再構築を必要としています。同時に、世界金融危機、人口の高齢化、地球環境問題な

どの解決も急がれるなかで、中長期的にどのようなシステムを構築すべきか、真剣に考えなければなりません。このようなときにこそ、経済学を学ぶ意義は大きいといえます。

どのような社会経済現象も、人々の行動の集積です。経済学は、人の意思決定と行動にまず焦点を絞り、その積み上げとして社会現象を見ます。世の中では、常に相手がいて、相互依存関係のなかで各人が行動し、物事が決まっています。一方で、何かを行うときには、必ず制約があります。人的資源、物的資源などの制約のなかで、機会費用を考えながら最適な解を求めていく必要があります。相互依存関係のなかで物事が決まっていくという見方、常に制約のなかで最善策を求めなければならないという考え方——これが経済学の基本的な視点です。

一人ひとりの人間の行動に遡ったうえで、その集積を解析することで、大きな現象が起きていることのメカニズムが明らかになり、問題の

解決策も見えてくるのです。このような経済学的な見方・考え方は、さまざまな場面で応用できます。たとえば、いま原発事故による風評被害が深刻になっていますが、それはなぜ起こるのかといった問題の解決にも力を発揮します。こうした「大きな社会」の問題だけでなく、企業の組織をどうつくるかといった「小さな社会」の問題を考えると、にも経済学の考え方が役に立つのです。

### カリキュラムの特徴

経済学は数学や統計学を基礎として、社会経済現象のエッセンスを理論で表現し、データや資料で検証するという科学的な方法をとるため、その習得には、基礎から高度なレベルまで知識と分析力を着実に高めていく必要があります。経済学部では、1994年に「学部・大学院一貫教育カリキュラム」を先駆的に導入。今では、入門レベルから大学院レベルまでを段階

的に履修できる仕組みが定着しています。学部  
にしながら、努力次第で大学院クラスの高度な  
授業を履修することも可能です。各教員は、レ  
ベルに応じた講義を工夫するとともに、時事的  
な問題を適宜とり上げて、現代の社会経済問題  
をどうとらえて分析するかといった指導も行っ  
ています。

さらに、一橋大学全体の国際化の推進と歩調

を合わせて、経済学部でも大学院レベルの40  
0番台の科目を中心に、英語で授業を行う科目  
を増やしていく方針です。英語で授業を受け、  
議論し、答案やレポートを書く経験は、将来、  
グローバルなステージで仕事をするることにつな  
がっていきます。

講義科目と両輪をなすのがゼミナールです。

1・2年次には基礎ゼミが開講され、専門的な研

究の進め方を学ぶ機会が与えられています。学  
部3年からは必修のゼミを選択し、担当教員の  
密接な指導の下で、専門分野の学習を一層深め  
ていきます。経済学部には世界レベルで先端的  
の研究を行っている教員が多数います。一橋伝統  
のゼミで、研究者が未知の問題に取り組む姿勢、  
ものの見方・考え方を身につける機会が豊富にあ  
ります。

### 経済学部教育科目の構成

経済学部の講義科目は授業内容のレベルに  
より、100番台入門科目、200番台基礎  
科目、300番台発展科目、400番台大  
学院科目に分類されています。100番台と  
200番台には必修コア科目が設定されて  
います。これは経済学部の学生である以上  
これだけは押さえておいてほしいという基  
礎つくりとなる科目です。

100番台コア科目には、経済学入門、経  
済思想入門、統計学入門、経済史入門の4つ  
があり、すべて必修です。まず入門科目を学  
び、それをベースに200番台の基礎科目へ  
とステップアップしていきます。200番台  
コア科目には、基礎ミクロ経済学、基礎マク  
ロ経済学、基礎経済数学、基礎計量経済学の  
4科目があり、2科目が選択必修となってい  
ます。しかし実際には、3科目ないし4科目  
を履修している学生がほとんどです。続く3  
00番台および400番台科目では、理論、  
統計、応用、歴史などの幅広い専門分野につ

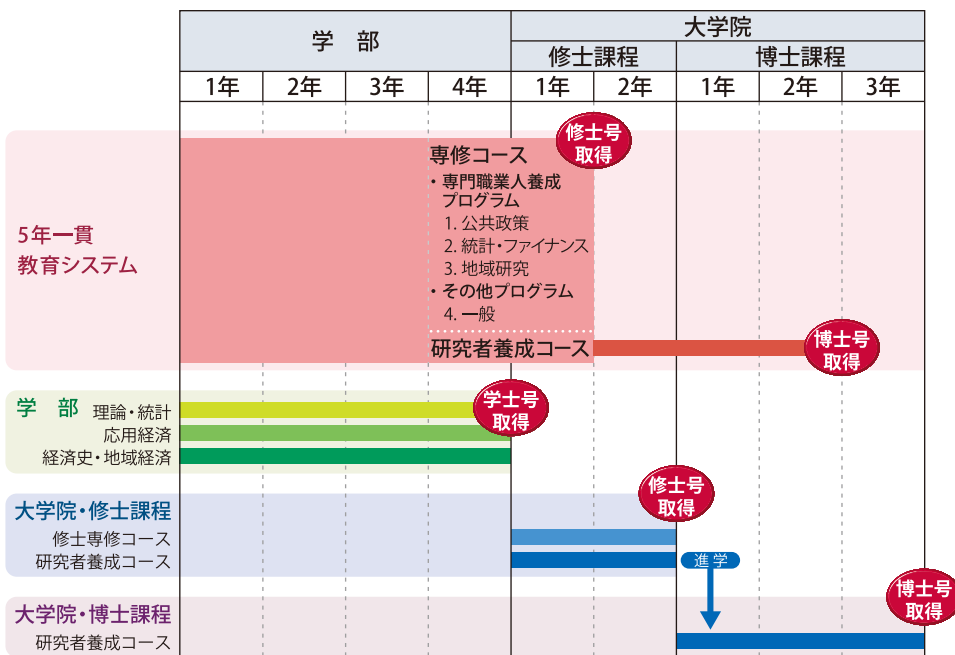
いて多様な科目が提供されています。

「経済学の共通の考え方と分析ツールを身  
につけたうえで、発展的な内容へと進んでい  
くこととなります。経済学部では、共通の  
バックグラウンドを基礎に、幅広いさまざま  
な問題を深く掘り下げて分析し、解決を図る  
方法を学ぶのです」(黒住英司教授)

### 5年一貫教育システム

複雑化・専門化の進む現代にあつて、海外  
では公的機関であれ企業であれ、経済に関  
わる専門職においては修士学位を取得し、  
経済学の専門的知識を的確に活用できるこ  
とが当然であるときなされています。経済  
学部には、4年間の学士課程と1年間の大  
学院修士課程を組み合わせて、5年間で経  
済学修士の学位を取得できる「学部・大学院  
5年一貫教育システム」があります。意欲  
のある学生は、学部的时候から400番台  
科目を計画的に履修することで、修士号の  
取得へつなげられるように、カリキュラム  
が工夫されています。

学部・大学院5年一貫教育システム



# 経済史

## 高柳友彦講師

高柳講師の専門は近代日本の社会経済史である。歴史学研究会の編集委員でもある高柳講師は、学会での議論を通じて震災への対応が研究者にとって重要な課題であることを強く意識していた。

「震災からの復興に関して関東大震災からの復興過程や後藤新平による東京の都市計画が注目されるなか、被災者の視点に立った復興のあり様が議論されていない現状に多くの問題があると考えました。急遽、『災害からみた日本史』を講義に加え、被災者の動向や行政機構による災害支援、義捐金の歴史について紹介しました」災害時の人々の動きは日常的な経済活動とは違った動きをとる。その実態に焦点を当てたのである。

「災害時には被災者の救援・救護活動、被災後の避難生活など、私たちの『生存』に行政機構が大きな役割を果たします。ただ、今回の東日本大震災では、その担い手である地方自治体の機能が大きく損なわれ、被災地は混乱しました。近年、行政機構のスリム化が進んでいますが、効率化だけで対応できない問題も多く、行政機構のあり様を再考する機会になればと考えています。また、関東大震災というと東京、横浜の復興の話ばかりですが、実は都市部に復興費用が偏ってしまったため、神奈川県沿岸部の自治体は財政面で大きな負担を強いられました。こうした過去の災害時におけるさまざまな事実を正確に知り、その経験を踏まえたうえで、今後の復興のあり方を考えていく必要があるのです」

経済史は、歴史学と経済学の中間領域であり、歴史と経済の双方からアプローチしていくことができる学問である。

「さまざまな人々の営みや経済活動の実態を通して、多面的なものの方を理解してもらおうと同時に歴史的アプローチの重要性に気づいてもらえると嬉しいですね」(談)

## 現代的課題を さまざまなアプローチから考察する

3月11日の東日本大震災は、各界に大きな衝撃を与えた。

ここでは、歴史的視点から問題を俯瞰する、  
情報との付き合い方を学ぶ、2つの授業に焦点をあててみた。

# 経済の日本語Ⅰ・Ⅱ

## 今村和宏准教授

「経済の日本語」など、外国人留学生に日本語を教える授業がある。一橋大学で学ぶ留学生のほとんどが経済や商学をターゲットにしていることから、話題は必ずと経済的なものになる。

「メディアがどう情報を入力し、どう批判的に分析して、必要な情報を取り込むかを知る。そのうえで、メディアからよい情報が提供されるように付き合っていくことが重要です」(今村准教授)

今村准教授は、先ごろ発生した東日本大震災とそれに伴う原発を題材に問題を提起した。授業では、「本当に日本に原発は必要なのか？」という素朴な疑問に迫った。参考資料として使用したのが『電気事業便覧』である。「これは読み物とはいえない、数字の羅列であり、一次データそのものです。その分情報にバイアスが掛かっていますから、事実を前提とした議論が可能です。こうしたデータをじっくり観察すると、今年巷で騒がれた節電問題についても、疑問点が出てきます。たとえば、『電力需要の3、4割を担ってきた』原発が活用できないと考えれば、供給不足という答えが返ってきます。しかし、水力、火力などを含めた電源の発電設備量とその稼働率を吟味した場合、不足を結論付けるにはさらなる議論が必要になります。そうしたことが、一次データを眺めるだけで見えてくるのです」

マスコミによって加工された二次、三次データが溢れるなか、少なくとも大学で学ぶ者は、一次情報から何を読みとり、どう判断するか。その積み重ねで自分の軸を作ることが重要だと今村准教授は語る。そしてそれは、経済学を学ぶうえにおいても極めて重要なアプローチとなるのだ。(談)

# 基礎ミクロ経済学

## 竹内 幹准教授

「ミクロ経済学とは、個人や企業などの主体がどのように経済的意思決定をするのか分析する学問です。20歳の学生のみならず、それを実感してもらいたい」（竹内准教授）

だから、講義ではさまざまなエピソードが登場する。たとえば、日本では学生アルバイトでも時給800円ぐらいはもらっているが、中国では時給7円程度で働いている人がいる。なぜ、そういうことが起こるのか？ 学生に考えさせる。あるいは、『誰が電気自動車を殺したか？』という映画を観せて、利害関係が意思決定にどう影響するかを考える。すると、社会問題には経済的なバックグラウンドがあり、いわゆる善悪で短絡的に割り切れるものではないことがわかる。時には、男女の賃金格差を約40年前のボストンマラソンにまで遡って考える。実は、ボストンマラソンに女性選手の参加が正式に認められたのは、1972年のことで、その裏には社会のルールまで変えてしまうような人々の思いや歴史があったのである。

まさに、「人々の日々の一挙手一投足が経済学」なのである。竹内准教授の授業では、板書はしない。テキストに基づいてパワーポイントを駆使しながら講義を進める。合間に、「1分間で今の内容を自分の言葉で書いてください」といった指示をする。それは、自分の頭で内容を咀嚼することを重視しているからである。「文系の基礎体力とは、わかりにくいものを理論的にとらえ直して分析する能力。経済学的な枠組みを使って、反対意見の持ち主に対してでも説得力のある主張を展開できることです」（談）

## 経済学のファンダメンタル マクロとミクロを体得する

経済分析のための基礎理論ともいえるのが、マクロ経済学とミクロ経済学。重要だからこそ、理解を促す教育法が不可欠なのだ。

# 基礎マクロ経済学

## 塩路悦朗教授

「これから学ぶことは、君たちの生活に密接に絡んでいるんだよ」。塩路教授が、第1回の授業で必ず言う言葉である。「景気がよくなれば仕送りが増える」とか、「卒業時に景気が悪いと就活が大変だ」などと学生にとって身近な話題を用いて、学生に寄せた言葉で理解を促す。

「GDPや失業、貨幣などの間の関係をマクロ経済学ではどうとらえているかを知ってもらいます。具体的には、マクロ経済統計の諸概念を理解すること、長期・短期のマクロ経済モデルの数学的解法を理解すること、その結論が得られた理由を経済学的な言葉で説明できるようになってもらうことです。数式や図を使って自分で論理を追い、それを自分で再構築できるようにする。さらに、理解した論理を普通の言葉で語れるようになることが重要です」

学生の理解度を確かめるために適宜、課題を課している。マクロ経済学の一つの焦点が政府の財政政策や金融政策である。どんな政策にも積極策を支持する人がいれば、消極策を支持する人もいる。基礎マクロ経済学では、そのそれぞれの意見の背景にある考え方を知る。

「一橋大学の学生は、政府の政策にかかわったり、各所のオピニオンリーダー的な役割を果たしたりする人が多くなるでしょう。それだけに、世の中をどう見るかが問われます。だからこそミクロ、マクロ経済学の考え方や理論的な裏づけが重要になるのです」（談）

# 国際経済学

## 石川城太教授

4年前に石川教授が英語による講義を開始したのは、日本の大学教育に対する危機感からだった。

「世界における日本の大学教育の相対的な質の低下が心配です。世界の一流大学は英語圏でなくても英語での授業を行っています。韓国や中国などでも近年英語の講義を増やしており、学生に人気です。ところが日本では、英語による授業は少ないうえに、学生は英語の講義を敬遠する傾向にあります。本学の学生は将来国際的な業務に従事する可能性も高いのですから、英語での授業を通じて経済学の知識を身につけるのに加えて、グローバルな感覚を養ってほしい」

昨年、韓国で韓国の4大学と日本の4大学でインターゼミを開催した。「韓国の学生は英語を苦にせずに積極的に発言しますが、日本人学生はなかなか英語が出てこない。これは、学生にとっては自分の英語力を認識するよい機会になったと思います」

教育でもグローバル化が進んでおり、「将来は国内の大学ばかりでなく、ハーバードやケンブリッジといった海外のトップスクールと学生を取り合うことになる」という問題意識も石川教授にはある。

授業ではプロジェクターを活用、英語のレジュメを映しながら丁寧に説明している。試験問題も当然英語だが、解答は日本語でもよい。

「専門性の高い知識を英語で理解し、自分の言葉で語れるようになることが重要です。とりわけ研究者になるには、英語でのコミュニケーションや情報発信能力が欠かせません。もともと経済学は輸入学問で、横文字を縦文字に変えたもの。その意味では英語で学びやすい学問といえます」(談)

## 経済学の授業にみる大学の国際化

一橋大学は教育の国際化に意欲的に取り組んでいる。

経済学部・経済学研究科では、英語による講義を増やし始めており、海外の第一線で活躍している人材を教員として招聘し、グローバル経済のリアルな姿を紹介している。

## 開発経済学

### 小田島 健特任准教授

海外に関する「現場感覚」を備えた学生を育てていくことを目的としているのが新教育プログラム。国際協力機構(JICA)との連携による協力プロジェクトである。小田島特任准教授は、JICAではベトナム担当課長として、開発援助にあたっていた。

「開発援助では、ツールとして経済学的な考え方を活用する」と小田島特任准教授は言う。たとえば、経済が活性化すると輸入が増えて国際収支が赤字になるといったマクロの発想。それを掘り下げていくと労働市場整備といったミクロ政策の考えも必要になる。

「マクロ、ミクロ、金融といった経済理論が、開発援助という視点に立つと有機的に生きてくるのです」

開発援助には、現実起こっている事柄の背景や課題、解決法を考えていかなければならない。ベトナムであれば、国内問題ばかりでなく東南アジア諸国連合(ASEAN)一体化が進むなかでの生き残り策といったグローバルな動きを考慮したうえで、その国の抱える課題を解決できる経済政策の立案が必要になってくる。

「情報収集で重要なのは、英語で書かれたレポートを読み取る力です。タイムやエコノミスト、アルジャジーラなど英語のソースを積極的に活用してもらいたいですね。立場によって視点が違うことがよくわかります。こうして、表面的なことばかりではなく、その裏にあるさまざまなものをみようと努力が重要なことです。開発援助の現場感覚を積極的に伝えますから、自分で考える力、を身につける努力をしてもらいたいですね」(談)

# 資源経済学

## 山下英俊准教授

「資源や廃棄物などにかかわる問題には、市場に任せないほうがいい場合があります。市場取引に欠かせない権利の設定が難しいからです」という山下准教授。二酸化炭素排出権のように、新しい制度をつくって市場取引をする方法もあるが、国やコミュニティなどの共同体による管理に委ねたほうが有効なケースもあるという考え方である。

「市場だけに注目せずに、市場を動かす制度、法律、権利などを視野に入れ、市場を直すか、その外側の制度や法律などを直すか、新しい制度をつくるか……視野を広く持つて問題を分析します。問題発見能力養成とそれを解くプロセスの体験を重視しています」

そこで、授業では、問いを立てながら議論を進めていく。たとえば、東京都内で排出されるゴミが都内で処理できない現状と、それが都外での不法投棄につながっていることを前提に、「東京ですべてのゴミを処理できないか?」といった問いを立てて議論する。

「一つの問いへの解答が出ると、次の問いが立ちやすい」。たとえば、東京のゴミ問題。「どんなゴミが多いか?——建設廃棄物」「瓦礫や建設汚泥を都内で処理できるか?——できないものもある」「処理できない建設汚泥はなぜ生じるか?——地下鉄、高速道路の地下トンネル、高層ビル建設」「なぜこれほど地下を掘らなければならないのか?……」。こうして都内でゴミ処理できない理由に都市計画がかかわっていることがわかってくる。入口は身近なゴミ問題だったが、出口ではゴミを考慮した都市計画という大きな社会的問題にまでおよぶのである。(談)

## オルタナティブな経済学 経済学のもう一つ別の見方

オーソドックスな経済学の考え方では、人々は合理的な行動を取り、その意思決定の集積により社会全体ではよい結果が生まれる、市場はそれを達成するための制度だ——という観点に立っている。ところが現実には、この考え方ではうまく説明できない分野がある。

# 市場と社会

## 水岡不二雄教授・石倉雅男教授

「狭い意味での経済学は、貨幣を媒介として財が取引される市場を対象にしています。労働も、このような財の一つと認識されます。しかし、労働の背後には、雇われないと生活できない人と、雇う立場の人との社会的な関係があります。労働者は失業すれば貨幣が得られなくなって消費財を市場取引で買えなくなり、労働者は餓死しかねませんから、これは社会問題です。人間という視座をしっかりとふまえて考えると、市場は、社会全体のなかに、一つの部分システムとして置かれているに過ぎません。このように『市場』を広いコンテクストのなかに位置づけて考えてもらいたいというのが、この科目のねらいです」(水岡教授)

新古典派経済学は、原子的な経済主体が、情報の完全性・自己利益極大化の行動など、人間が特定の行動を取るという前提のもとに構築されている。そして、貨幣を媒介とする市場取引以外の社会関係を人々が持つことは「邪悪」とされる。しかし、現実の社会では、「信頼関係」や「ブランドイメージ」など、市場以外の社会関係が取引の重要な要素となっている。「もっぱら非人格的關係(顔の見えない関係)を考察対象とする新古典派経済学とは異なって、人格的な関係(顔の見える関係)を考えに入れた経済学を追究していかなければ、経済現象を包括的に理解できないのです」

歴史的にみれば、戦後資本主義の黄金時代を築いたフォーティーズムは、オイルショックと財政危機で行き詰まって、ネオリベリズムに転換し、「小さな政府」が唱えられるようになった。しかし、ネオリベリズムのもとでも、実際には政府がさまざまな程度で市場調整をしており、必ずしもすべてが「見えざる手」の自由放任に委ねられているわけではない。

だが、ネオリベリズムのレジームでは、政府の介入が必ずしもうまくいっていない。金融資本や巨大企業救済のため多額の財政支出を行ったあげく、政府部門の負債は増し、資本主義は世界的にますます危機的様相を呈してきた。「第三のレジームはないのでしょうか。市場原理主義と対偶の位置にある、性善説的に行動する人間が互酬的に交わり合うコミュニティを経済システムの中心に位置づけるところから、展望が生まれてきます」

市場とネオリベリズムを相対化し、新しい発想のもとで経済学を考えてもらうことで、より広い視座を学生が得られるよう促しているのが、「市場と社会」の講義である。(談)

# 行動経済学

齊藤 誠教授

行動経済学とは、人間がどのように選択して行動を起こし、その結果どうなるかを究明する学問である。そのため、実験や人間観察を重視している。

授業では、意思決定論の世界的権威である Gilboa教授の *Making Better Decisions* をまず読み込む。「これはいわばケーススタディの集積で、実験やアンケートから人々の認識のバイアスや意思決定のゆがみを見つけ出し、よりよい意思決定に向けて何がきっかけとなるのかを明らかにします。ここで得た知見を基に、現実の素材を利用して研究を進めていきます」(齊藤教授)

あらゆる事象が人間の意思決定に影響を与える。

「3月11日の東日本大震災では、行動経済学的見地からいって注目している現象が数多く現れました。そこで、大震災関係にも研究リソースを投じました。大学院演習においても、多くのテーマが浮かび上がってきましたが、そのなかから食品の放射能汚染の風評被害のメカニズムにテーマを絞り込んだのです」

7000〜8000世帯を対象にインターネットでアンケート調査し、それを分析することで「明らかに安全基準を下回る食品であ

りながら風評被害が生ずるメカニズム」を解明しようとしている。生きた素材を分析することで実際に役立てようとしているのである。

齊藤教授が主宰する近未来課題解決事業プロジェクト室を訪問すると、齊藤教授のほか、研究員の鈴木雅貴さん、博士後期課程の顧濤



さん、修士課程2年の阪上見幸さん、長谷山京佑さんが研究を行っていた。やがて、長谷山さんがプロジェクト室を使って発表を始めた。

「まず、これまで学んだことのおさらいをし、行動経済学による洞察から、現実の地震によって起きた認知の問題をどう解決するかを見ていきます」と *Making Better Decisions* から得た知識を整理してから説明を開始した。

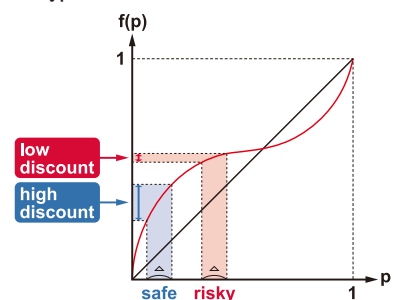
内容は、牛乳のセシウム汚染に関する認知の問題である。縦軸に「主観」、横軸に「客観」を取ったグラフでは、45度の直線の上側が過大評価、下側が過小評価になる。「客観的指標がゼロに近いときは、ちよっ

としたリスクの上昇が過大に評価されてしまいます。いわゆるゼロリスク指向で、少しのリスクでも回避したいという願望が強まるわけです。この *tear effect* (恐怖効果) が、風評被害の源泉ではないかと考えられます」。しかも、健



康な人とそうでない人など、人によって主観が違ってくる。そこで、「セシウム200ミリベクレルが含まれた牛乳を1年間飲み続けたとしても、発ガン確率は0.025%」といった客観情報を提供することを前提に、「マーケットをつくって消費者に選択を任せる」ことが可能になる。

A hypothesis: The Source of Rumor



「多様な意見を調整するのが市場です。この市場を活用すれば、デリケートな意見を政策にストレートに反映して規制を強化するより、風評被害を緩和し、資源配分の効率化を高めるといった弾力的な措置を取ることにつながります。牛乳のセシウム汚染について政府がやるべきことは、客観的な汚染度調査です。あとは人間を信じ、市場の静かな声を大切にすることです。

経済学部では基礎を重視しています。学部で英語をしっかり学び、3、4年

次に経済学の実力をつける。大学院での勉強は、経済学の醍醐味がわかるようになってからです」(齊藤教授)

この秋には、データ分析も終了。食品の放射能汚染に関する風評被害のメカニズムも明らかになる。(談)

## 大学院での授業

### 東日本大震災の風評被害に関する研究プロジェクト

一橋大学の経済学部では基礎を重視している。

基礎の蓄積があって、3、4年次には高度な議論を闘わせるようになる。

そして、大学院経済学研究科では世界水準の研究に着手する。





進化する大学

# 進む一橋大学の情報化戦略

——信頼度の高い研究情報発信の基盤が整う

一橋大学の研究者情報「HRI」と機関リポジトリ「HERMES-IIR」の相互リンクが完成しました。最近では、一橋大学の機関リポジトリへのアクセス数は増えています。しかし、教員の論文がどれだけ引用されるかは大学の評価につながりますから、さらに利用されやすい環境づくりが重要なのです。

今回の相互リンクでは「使いやすい」と「信用度が高い」がキーワード。個々の教員にとっては、関連論文の検索が容易になります。大学にとっては、内外からのアクセスの増大が期待されます。なお、機関リポジトリに載せると国立情報学研究所のCiniiなどにも全文が掲載されます。一橋大学の成果物を載せることで、研究情報の発信能力が高まることにつながります。

一方の研究者情報は、研究者の「品質保証書」のようなものですから、常にバージョンアップしていきます。

一橋大学の図書館にはマンガ・文庫をはじめとする古典資料が豊富に所蔵されていますので、そのデータベース化も構想しています。世界中の研究者が自国に



一橋大学副学長

大芝 亮

Ryo Oshiba

いながら貴重な資料を活用できるようにしたいと考えています。貴重資料をデータベース化し、世界の研究者に開放していく試みは、世界でも未だ数少ない状況だと思えます。こうして一橋大学が長年にわたって蓄積してきた「知の集積」を対外的に公開することで、「知の拠点」としての一橋大学の役割はさらに高まってくるでしょう。

## 機関リポジトリとは？

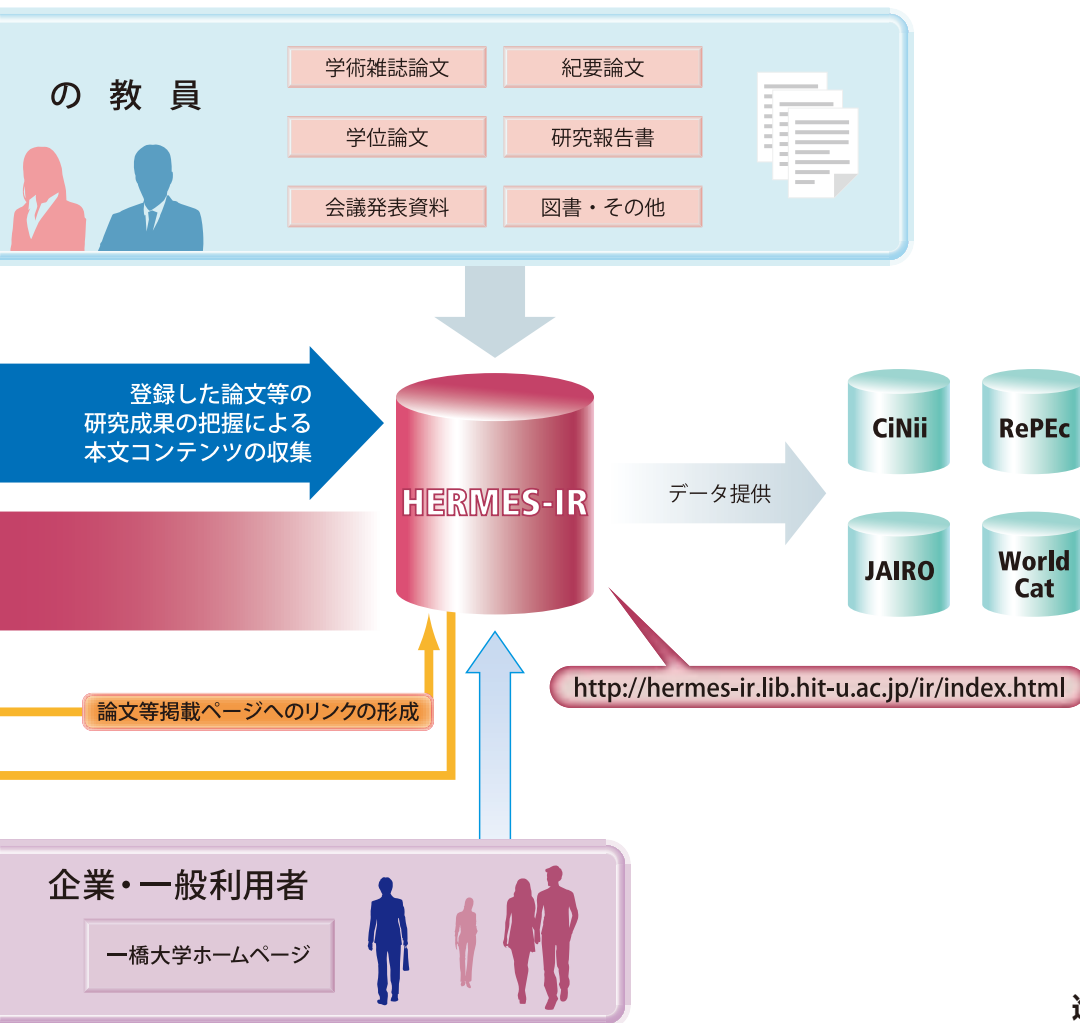
大学や研究機関が構築する機関リポジトリ (Institutional Repository) とは、研究活動により生産された知的生産物を保存し、無償で発信するための電子的な保存庫 (リポジトリ) のことである。研究紀要や学術雑誌などに掲載された論文ばかりでなく、ワーキングペーパーや会議等での発表資料、研究報告書、教材なども収蔵される。

大学で生産された知的生産物を長期保存することで「知の集積」を実現し、研究成果に対するアクセスを格段に向上させるという機能がある。さらには、研究教育活動の公開という大学の社会的責任を果たすことにもつながっている。なお、HERMES-IRに登録された論文は、国立情報学研究所のCiNiiにも登録される。

## 研究者情報と機関リポジトリの相互リンク

大学の中期計画のなかに、研究者情報「HRI」と機関リポジトリ「HERMES-IR」の連携があり、「研究者データベース仕様策定委員会」において、研究者情報を使いやすくするために機関リポジトリと

## 機関リポジトリ「HERMES-IR」の相互連携



### 進む一橋大学の情報化戦略

—信頼度の高い研究情報発信の基盤が整う—



※一橋大学研究者情報「HRI」とは、「Hitotsubashi Researchers Information」の略

の相互リンクをしたいという要望があがった。それを受けて、2010年度末にリニューアルを行い、相互リンクを実現した。これにより、研究者情報から機関リポジトリのデータに直接リンクすることや、機関リポジトリから研究者情報にアクセスできるようになった。また、機関リポジトリに本文コンテンツを登録すると研究者情報に基本情報が自動的に転送されるため、教員の負担も軽減される。

研究者情報に、各研究者の研究成果が確実に記載されていれば、大学全体の研究成果を正確に把握することができ、また、機関リポジトリに収録されていない論文なども把握できるので、機関リポジトリへの登録を促すことが可能になる。

## 研究者情報のリニューアル

研究者情報では、レイアウトを変更し全体を視覚的にも見やすくした。研究業績はキーワードで分類。トップページから検索しやすくした。Googleなどのインターネット探索エンジンからも検索できるようにして、学外からのアクセスを容易にした。

なお、研究者情報に記載する業績などはダウンロードしてExcel形式で加工し、アップロードできるようにしたので、情報の更新がスピードアップした。

その結果、アクセス数が増え、研究成果を幅広く伝えることができている。また、業績を登録しやすい環境づくりを行ったことで、登録データ数も増加している。今後は、各研究科の教員情報との直接リンクや同期、大学院生など若手研究者のデータベース構築なども視野に入っている。

## 一橋大学研究者情報「HRI」と一橋大学

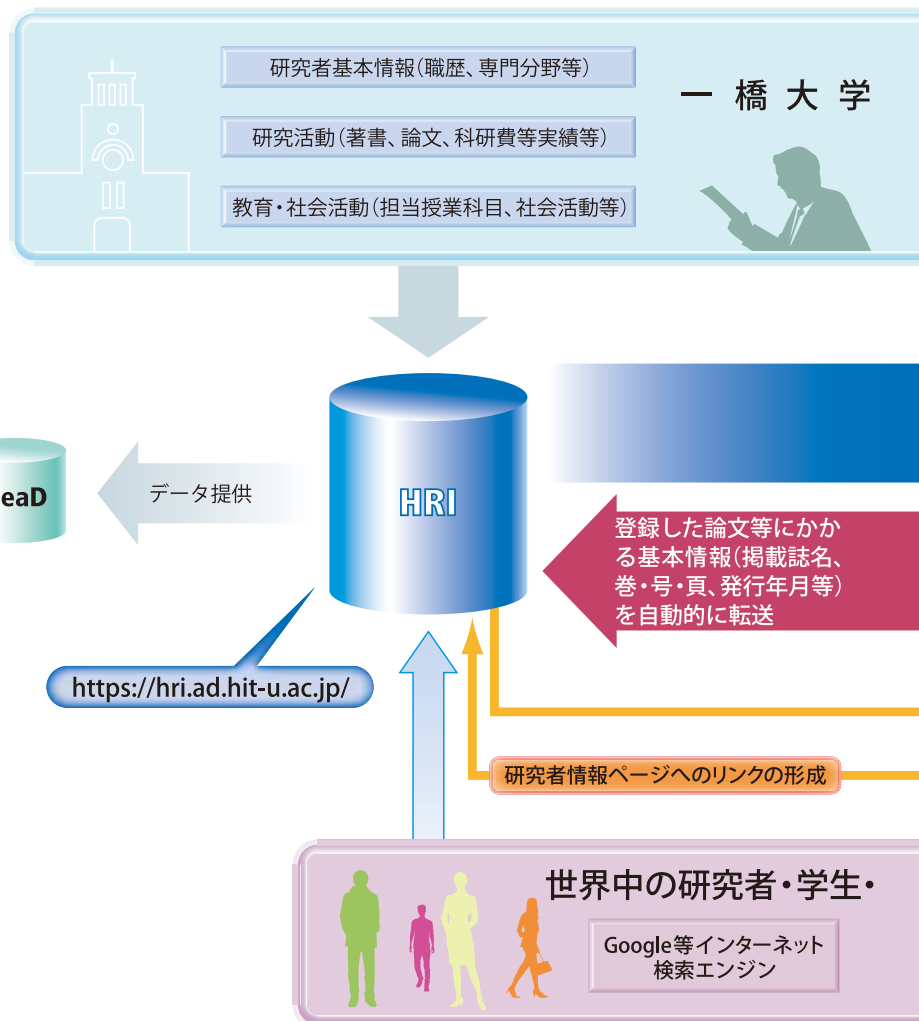
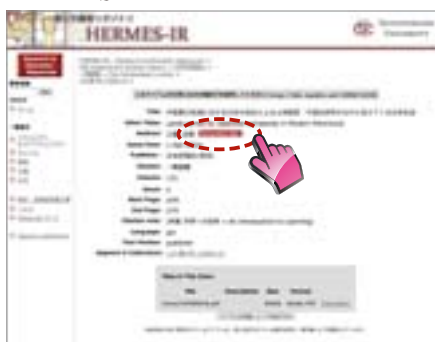
### 相互リンクについて

それぞれのページにおいて、リンクボタンが自動生成されます。

### HRI



### HERMES-IR



### 相互連携によるメリット

これまで、論文等の研究業績について、本文コンテンツは「HERMES-IR」へ、基本情報は「HRI」へ別々に登録しなければならず、また、相互リンクもされていなかったが、現在は本文コンテンツを「HERMES-IR」に登録すれば、自動的に基本情報が「HRI」へ転送されるようになり、教員による登録の手間が省けるようになった。また、「HERMES-IR」に登録されている業績は、「HRI」においてリンクボタンが自動生成されるようになり、利用者が、「HRI」の業績一覧から手軽に本文コンテンツを閲覧することができるようになった。

# 縦横無尽に各国の刑事法にアプローチ、 「法」という社会現象を丸ごと解明する



れの国の法律とそれぞれの社会との関係——、なぜ、こうした法律をつくったのかということまで研究するところに特徴があります。法律とその背景にある社会との縦的な関係にまで踏み込んで研究しているのです。これを、「縦的な比較」と呼んでいます。

「横的な比較」と「縦的な比較」

を同時に行うというのが、私の研究手法の特徴です。私は、単に法律を比較するのではなく、その法律が生まれた必然性をその国の社会や歴史から解明しようとして、比較することを重視しています。そこで、社会特質論的なアプローチを行っているわけです。これは独特な研究スタイルと言えます。

たとえば、資本主義か社会主義か、といった社会体制論的見方があります。これは外在的なものであり、外から見える枠組みに過ぎません。多くの社会現象は、その枠組みの中の骨や肉、枠組みの後ろにある文化的な背景で決まります。したがって、社会体制からの比較だけではじゅうぶん説明しきれません。そこで、もう一つ概念である社会特質論からのアプローチを重視しているわけです。

社会体制の裏には、それぞれの社会が一番大切に



している力、皆が信じている社会の原点があります。それが社会特質であり、社会特質から法律にアプローチすることが、法律を正しく理解するために有効なのです。

## 権力社会、法律社会、文化社会

### ——日米中の社会特質は？

社会特質論でいうと、中国は権力社会です。これに対してアメリカは法律社会で、日本は文化社会といえます。そのそれぞれの社会特質が、刑事法に違いをもたらしています。

そもそも犯罪と刑罰の概念が各国で違います。中国では、犯罪の「質と量」が問われます。これに対して日本では、犯罪を純粹に「質」的概念で

## 「横的な比較」と「縦的な比較」で 各国の刑事法を分析する

私の専攻は比較刑事法。その名が示すように、それぞれの国の刑事法を比べるという研究です。

通常、比較刑事法というと、刑事法自体の国による違いの比較をすることを意味します。つまり、法と法との比較で、私はこうした手法を「横的な比較」と呼んでいます。日本や中国、アメリカなどの刑事法を横に並べて比較するやり方だからです。

私の研究手法は、「横的な比較」と同時に、それぞ

とらえています。

たとえば、窃盗罪。中国で泥棒に遭って警察に通報したら、「いくら盗られたか」がまず問われます。一定の金額以上を盗らないと窃盗罪にならないのです。これに対して、日本では「盗った」こと自体で窃盗罪が成り立ちます。大阪の中学生がコンビニエンスストアの電源から無断で携帯電話を充電したことで、窃盗罪として送検されたケースがあります。

## 社会的背景を知ると 法律の理解が深まってくる

金額からいえば数円程度でも、日本では窃盗罪に問われるのです。中国では、少額の万引きでは警察は動きません（資料参照）。

窃盗罪に対する概念の違いは、社会特質論で説明できます。先ほど中国は権力社会であるといいました。共産党の一元独裁で、少数の人間が社会秩序の維持を担っています。どうしても、管理するマンパワーが足りませんから、影響の大きいものに絞り込んで一罰百戒的な波及効果をねらうこととなります。一方の日本は文化社会です。つまり、道徳的に悪いことイコール犯罪という考え方により、金額の多少より窃盗という行為そのものを罪とするわけです。アメリカは法律社会です。アメリカ法の精髓は、市場経済における競争ルールの確立にあります。そこで、経済犯罪など市場競争に影響を与えるものには重い刑罰を与えます。一方で、市民の人身の自由を重視してきますから、経済犯罪以外では、程度の軽いものはあまり重視しないのです。

のかを知ることが必要なのです。その意味でも法律家には、相互理解を進めるための宣教師的役割が求められてきます。なお、一橋大学と中国人民大学、釜山大学の日中韓3大学で行っている「東アジア共通法の基盤形成に向けて」というプロジェクトの目的の一つは、それぞれの国の法律の背景にあるものを解明することにあります。

## 3カ国以上の比較から 違ったものが見えてくる

比較というと二つのものを比べることが多いですが、私の研究方法のもう一つの特徴は、三つ以上のものを比較するよう提唱していることです。

日本では、2009年に裁判員制度がスタートしました。その導入に際してアメリカの陪審制を参考にしました。中国では人民陪審制が60年以上続いていましたが、1997年にいったん廃止されていきました。それは、陪審員のなり手がいない、陪審員の判断に権威がないといった理由があります。陪審員制度でも、日米中を比べてみると、もう一つ別な側面がみえてきます。日本の裁判員制度をみると今はうまくいっていますが、今後長く続くかどうかは、平等社会意識、仲間意識の強い日本社会とどう折り合いをつけていくかにかかっています。たとえば、裁判員によってまちまちな量刑が示された場合、日本社会はそれを容認できないのでしょうか。（談）

### 資料：日本と中国の「窃盗罪」の違い

【中国の刑法】  
第二六四条 公私の財物を窃取した者は、その額が比較的多数であるか、又は数回にわたって窃取した場合、三年以下の懲役、拘留又は管制に処し、罰金を併科し又は単科する。その額が巨額であるか、又はその他の重い情状がある場合は、三年以上十年以下の懲役に処し、罰金を併科する。その額が特に巨額であるか、又はその他の特に重い情状がある場合は、十年以上の懲役又は無期懲役に処し、罰金又は財産の没収を併科する。次の各号に掲げる事情の一つがある場合は、無期懲役又は死刑に処し、財産の没収を併科する。  
一 金融機関で窃盗し、その額が特に巨額である場合。  
二 珍貴文物を窃取し、その情状が重い場合。

【日本の刑法】  
第二三五条 他人の財物を窃取した者は、窃盗の罪とし、十年以下の懲役に処する。

だからといって中国では、窃盗は軽い刑かというところと、死刑の可能性まであるのです。つまり、中国での犯罪と刑罰の特徴が「狭くて重い」といえま

すし、アメリカは罪種によって違うというわけです。重視してきますから、経済犯罪以外では、程度の軽いものはあまり重視しないのです。それぞれの国の法律を的確に理解するには、条文だけの比較ではなく、その背景にあるそれぞれの社会の特質に対する理解が不可欠になります。グローバル化が進んでいる昨今では、経済活動などでは相

法学研究科教授  
王雲海 (Wang Yunhai)

1982年中国西南政法大学卒業、1982年中国政法大学教師、1983年中国人民大学大学院、1984年来日、一橋大学で法学修士、法学博士号取得、1999年～2000年米国ハーバード大学客員研究員、2003年より一橋大学教授。著書に、『監獄行刑的法理』（中国人民大学出版社）、『日本の刑罰は重いか軽いか』（集英社）など。



# JAZZ!

## ジャズ喫茶を題材に、異文化の自文化化を考察する



んな価値が付与されていったのか、全国のジャズ喫茶をまわってインタビューを重ね、古いジャズ雑誌を分析して論証しました。今は音楽が空気のようになっていますが、戦後しばらくは輸入盤レコードが、高価な時代です。図書館にも置いてありませんし、ジャズがラジオで流れていても、時間がごく短いので、ゆっくりジャズを聴きたかったらジャズ喫茶に行くしかなかったのです。

日本で最初のジャズ喫茶は、昭和4年（1929年）に誕生しました。大正・昭和初期のカフェ文化の延長です。新しくやってきた蓄音機という舶来文化を味わう日本独自のモダン空間として生まれました。

やがて録音機ができて、過去の名演奏や行ったことのない国の人の演奏を聴くことができるようになったのです。戦前のジャズ喫茶には、西洋文化を感じる場所としての役割がありました。戦後になり、ジャズ喫茶は、戦前とは違った役割のもと発展していきます。1970年代には、全国で約600軒以上のジャズ喫茶がありました。やがて日本経済の発展とともに一般家庭にもステレオが普及し、さらに音楽が携帯できる時代がきたことで、ジャズ喫茶は徐々にその役割を終えることとなります。音楽の研究一つとっても、技術や歴史、文化など複雑に入り組んだものを考慮しなければならぬのです。

あたりまえと

信じられていることに

疑問を投げかける

私は周りの期待を裏切るのが趣味（笑）で、「あの人、沖縄文学研究しているよ」といわれると「違うよ」、「ジャズを研究している?」「違うよ」というように、研究テーマを変えています。飽きっぽいかもしれませんが……。

私の興味は、普段何気なく触れている文化が、どのような変遷を経て人々に受け入れられ、形式化されてきたかを探る

ことにあります。研究対象としてきた、アメリカ占領下の沖縄文学や日本におけるジャズ喫茶文化は、アメリカによって持ち込まれたものから影響を受けながらも、日本独自のものとして変化してきました。普段あたりまえと信じられていたことが、誰かの手によって恣意的に加工されていたりするわけです。

日本独自の

モダン空間として発展

日本では欧米文化の受容が本格的に始まるのは明治時代です。ジャズは大正時

代に入ってきてはいましたが、戦時中に敵性音楽禁止ということで、下火になってしまいました。ところが戦後になると、ジャズはハリウッド映画と並んでアメリカ文化を代表するものとして受け入れられるようになりました。戦前に流行したジャズは眉間に皺を寄せて聴くようなインテリ向けの難解なものではなく、大衆音楽として人々から受け入れられています。大衆音楽のイメージだったのです。それが1960年ごろから変わっていきます。

昨年上梓した『ジャズ喫茶論』では、海外から入ってきた音楽の位置づけやど

## ニューヴェルヴァーグ映画とともに 高尚なモダンジャズに

戦後初期に日本で流行したジャズの形態はスイングジャズで、ビッグバンドの演奏に合わせて踊るような音楽でした。モダンジャズの発端となったのは、ビートルのような少人数による難解なハーモニーとハイスピードな曲でした。しかも、演奏者はエンターテインメントよりも真面目に高度な音楽を追求している雰囲気があったので、ジャズが芸術音楽に昇格していきました。

戦後、日本でモダンジャズが流行るきっかけをつくったのは、アメリカ発信ではなく『死刑台のエレベーター』といったフランスのニューヴェルヴァーグ映画でした。昭和33〜35、36年ごろ、新しい映画に挑んでいたフランスの20代の監督がアメリカの一流ミュージシャンにサウンドトラックづくりを要請しました。その音楽が、若いインテリや芸術家、そして文化人に憧れている若者に注目されたのです。「フランスのインテリが認めるお墨付きの音楽」がモダンジャズだったのです。安保闘争前後で、時代の空気にも合っていたのでしょう。1960年代の雑誌を見ると、「モダン」と冠がついて、モダンジャズという表現になっていきます。これはある意味で近代モダニズムに沸いた大正時代と類似しています。新しい「もの」が入ってきて、自分たちが求

めている、あるいは直面する問題から脱却する機会を与えてくれる感覚です。

## 日本における ジャズのヒエラルキー化

前衛的な若者文化にかかわっている人たちが、ジャズに感化されたことで、ジャズのイメージが一変しました。日本人の想像のなかで、「ジャズのヒエラルキー」がつくられていくのです。それまで日本でジャズといえば、白人のビッグバンドによる音楽が主流でした。それが、ジャズといえば、黒人による情熱的で強烈かつ難解なものに変わっていったのです。日本では安保闘争、アメリカではアフリカ系アメリカ人の公民権運動とつながって、政治的な音楽、抵抗の音楽としてイメージされ始めたのです。

ジャズは黒人がつくり上げたものであることは間違いありません。しかし、そこに政治性をみるのは単純すぎる思い込みです。実際には公民権運動の中心になった音楽は教会音楽でした。教会で歌い、力を蓄え団結して、外に出ていくというもので、決してジャズが公民権運動に密着していたわけではありません。

日本では、安保闘争のデモに出るときに、学生証を行きつけのジャズ喫茶に預け、機動隊に追われてジャズ喫茶に逃げ込んだというエピソードがあります。結果として、こうした体験が、アメリカでジャズとイデオロギーが密

着していたという思い込みをつくり上げてきたのです。

## カテゴリーがひとり歩きして 偏ったイメージをつくってしまう

日本全国のジャズ喫茶を訪問して、一番印象に残っているのは、博多で見つけた古いジャズ喫茶です。店内には、1万枚を超すLPレコードがありました。驚いたのは、ジャズブームはもとより、レコードすら知らないかもしれない20代の若者が、お店を任されていたことです。彼に、どのようにしてレコードを探しているのか聞いたところ、「うちにはレコード地図がある」と彼は答えました。見せてもらうと、レコードはまず楽器別に分類されていました。そのサブカテゴリーは、黒人、白人、ヨーロッパ人、日本人と人種別・国籍に分類されています。検索しやすいようにオーナーがカテゴリー分けをしたのでしようが、無意識のうちに序列がつけられてしまっているのです。ジャズという音楽

カテゴリーにおいては、黒人ミュージシャンが頂点で、日本人は最後というように。こうして誰かがたまたま便宜上カテゴリー分類したものが、ひとり歩きして、一般的な認識として定着してしまうこともあるのです。

カテゴリー化することで、ある部分にはより加工されたカテゴリーを当然だと考えるのではなく、複眼的な考察が必要になってくるのです。

異文化を自文化として取り込む自文化化により、見えなくなったものを見るには、歴史的に遡るという方法があります。演歌について書かれた本によると、現在演歌と呼ばれている音楽が普及するのは1960年代半ばで、ある意味でそれは、音楽産業によって新しく作り上げられたものなのです。

カテゴリーや価値観は、何らかのきっかけでできたものであったり、偶然出てきたものであったりするものだからといっていいでしょう。

これまで常識のように見えていたものに、疑問を投げかける。グローバル化の進展が著しい時代にこそ、必要なアプローチなのではないでしょうか。(談)

社会学研究科教授

Mike Molasky (マイク・モラスキー)

1956年米国セントルイス市生まれ。コネティカット・カレッジ准教授、ミネソタ大学教授等を経て、2010年一橋大学大学院社会学研究科教授(地球社会研究専攻)。著書に、『ジャズ喫茶論——戦後の日本文化を歩く』(2010年、筑摩書房)、『ニュー・ジャズ・スタディーズ——ジャズ研究の新たな領域へ』(2010年、共編著、アルテスパブリッシング)、『占領の記憶/記憶の占領——戦後沖縄・日本とアメリカ』(2006年、青土社)、『戦後日本のジャズ文化——映画・文学・アングラ』(2005年、青土社、2006年サントリー学芸賞受賞)などがある。ジャズピアニストとしてライブ活動もしており、リリースしたCDに、『“Dr. U-TURN” Mike Molasky ~ solo piano ~』(2010年、STUDIO SONGS)、『“MIKE MOLASKY TRIO--LIVE” BACK AT AKETA!!』(2006年、AKETA'S DISK)がある。

【Official Web Site】<http://molasky.nsf.jp/>

一橋大学草創期。

そこには、新しい価値を創らんとする力があつた。建設者としての誇りと意志があつた。

「Captains」それは近代日本の発展に多大なる功績を残した人々のストーリーである。

学問、国、家業、大学運営……有事のたびに求められた人格。

「Captains」第10回では、小山健三の足跡を追ってみた。



第10回

# 小山健三

晩年の小山健三（66歳、1923年）

38～43ページの写真はすべて  
『小山健三傳』からの転載



# 教育の力

## 早熟の天才、 14歳で教育の世界に入る

小山健三は1858年、武州忍おしのの下級士族小宇宙三郎の長男として生まれました。1858年といえ、江戸幕府が米使ハリスと修好通商条約を締結した年であり、この年から日本は、手探りながら国際化の道を歩み始めます。小山が生まれたところ、現在の埼玉県行田市にあたります。7歳より寺子屋にて漢籍と習字を学び始め、11歳のときに忍藩校進修館に入学、漢学、数学の修業を始めます。特に数学には秀でていましたが、学ぶ姿は立身出世を夢に志を高く持ち、ひたすら勉学に励む秀才とは風采が少し異なっていました。「君は幼きより余り遊戯に耽らざりき。常に一室にありて書を読み、算数の難問を解くを好み…(後

略)」（『小山健三傳』）に記されているように、勉学は幼少期の小山の楽しみの一つであったようです。14歳にして藩校の助教になり、小山は教師としてのキャリアをスタートさせましたが、翌年（1872年）には、東京に出てさらに学問に励むことになりました。東京では、測量を学びながら1873年に順天求合社と攻玉社に通い、高等数学を学び、学外でドクトル・パームに化学、英人フリウムに就き、語学を学びました。

東京での学問修業は3年におよび、18歳で教育者として世に出ます。最初の勤務地は長野県、師範学校予科の訓導として赴任しました。しかし彼の地では、小山の第一の転機が待っていました。夫人となる照子と出会い、赴任したその年に結婚します。さらに新婚間もない妻を長野に残し、教員を辞し、新潟に旅立つことになりました。東京で化学を学んだパームに会うためです。当時、エリー

### Captains 小山健三

小山健三は、1898年、40歳にして文部次官の職を辞し、  
国立第三十四銀行（旧三和銀行の前身、現三菱東京UFJ銀行）の頭取に就任します。  
その傑出した経営手腕は、関西の渋沢栄一と呼ばれ、広く関西経済の発展に多大な功績を残しました。  
しかしその前半生は、教育者、近代日本教育の建設者として、  
とりわけ専門教育の礎を築くことに尽力しました。  
いずれの職責においても、近代日本の国家を形づくるうえで、重要な役割を果たしました。  
一橋大学の前身、高等商業学校に校長として在籍したのは、  
前半生の後半、1895～1898年の3年足らずですが、  
人材育成、学課改定などを通して高商の充実をはかりました。  
『小山健三傳』に題言を寄せた菊池恭三は、小山の人物像を「史記」から引用して、  
「桃李の下自ら蹊を成す」と評しています。  
仕事場の上司や同僚も頭脳明晰、かつ、篤実温厚ひととなりと完璧な為人を後世に伝えています。

ト青年たちの夢は、海外で先端の学問を学ぶことであり、小山もまた洋行に強い意欲を持っていた。パアムの新潟赴任を知った小山は、氏を頼り、新潟より外国に渡ることを考えていたのです。しかし、小山が新潟に到着したとき、そこにパアムの姿はありませんでした。新潟での任務を終えたパアムは、東京に戻っていたからです。もし、このときに洋行の夢が叶っていたら、小山の人生も大きく変わっていたのかもしれない。ちなみに小山はその生涯を通じて洋行の経験はなく、得意とされていた外国語もすべて国内にて独学で学んだということです。

(注釈文)

その後小山は、前橋で教鞭をとり、1881年7月に文部省の官吏となります。学務局に配属され小学校、中学校の教科書検定係を命ぜられます。当時の検定科目は理科、修身、経済、読本、歴史等で、「当時の情勢は修身の如き純然たる儒教主義を採用し、論語などは最も喜ばれ、孟子の如きは排斥され、凡て矯激な文章を教科書に入れることを許さなかった」(1922年・小山講演録／『小山健三傳』より)と述べています。

政変によりプロイセン憲法支持派の伊藤博文、井上毅が、英国型議院内閣制を訴える大隈重信と犬養毅、尾崎行雄ら進歩派官僚を追い落としたことで、世情は二派に分断され、暗殺、辻斬りが横行するという実に殺伐とした時代。「内閣諸卿は只平和平靜に復帰することに向つて全力を傾注する



長崎県立師範学校校長時代、制服制帽姿の小山健三(27歳、1884年)

という結果が、文天祥の如き慷慨悲憤の文章を排斥に至り、教科書の検定も実に政府当局の方針に基づいたもの」(同上)だったようです。

## 我が身を削って 学校再建に奔走する

1883年、26歳のときに長崎に赴任します。学務課長と師範学校校長を兼ね、以後6年半にわたり、長崎の教育界の組織づくりを命ぜられます。

この後小山は長崎のみならず、日本の教育界に大きな足跡を遺していきますが、一教諭から教育家に成長するのは、ここ長崎での経験によるものが大きかったようです。

小山は数々の教育整備・改革を断行します。長崎は徳川時代、唯一外国人渡航が認められた地であるにもかかわらず、明治という国際社会にデビューする時代に、役割を閉ざされ置き去りにされていたのです。

「始めて御当地に参つて、著しく感じたことは、

関東に比較して教育が非常に遅れていることであつた」

と小山は後に振り返っています。1872年の新学制発布後、長崎には官立の医学学校、外国語学校、師範学校、準中学校、小学教員養成所が設けられ、100あまりの町村立小学校が整備されていきましたが、わずか数年のうちに医学校、英語学校、師範学校はいずれも廃止、小学校に至っては、校舎は腐朽し、運動場も荒地と化していました。小山はそのような「無残な」教育界に身を投じたのでした。

赴任直後、女子師範学校の設立に奔走します。後に知遇を得る森有礼は1887年の九州教育界視察の際、教育の最も重要なのは小学校の整備であるとし、そのための師範学校は何にも優先して整えられるべきものと説きました。就中、幼児生徒の教育は男子より女子が数段優れている。女子教員の養成は急務であると説いています。欧米では当時すでに、小学校低学年はほぼ女子教員が受け持っていました。森はこのシステムを全国各地に導入させる腹づもりでした。

しかし、この3年前、長崎では女子師範学校開設に向けて、すでに予算化がなされ、1884年7月に男子師範学校に併設する形で開校しています。小山は予算計上に止まらず、学校用地選定、教員補充、学校経営、そのすべてを整えました。

小山はこの師範学校の校長に就任し、学務課長と二足の草鞋わかしで休む間もなく働きます。この時期、長女みねを病で亡くしています。小山は前橋時代に長男敏雄を亡くしており、わずか5、6年の間に2人の子を失うという不幸に見舞われます。近い将来、我が子が辿るであろう小学校の改革——。私心と公務の同化はべからざることはいえ、そ

の不条理に夫婦の心境はいかばかりであつたのでしょうか。

悲運を嘆く暇もなく、小山は肅々と改革を進めます。長崎医学学校はこのとき、県立病院の附属学校として県衛生課の管轄下にありました。小山は病院と学校が逆転しているこの体制を改め、まず、医学校を学務課に移管します。ある日、医学校を視察した際、学舎には人体解剖模型1基と50倍の顕微鏡1台があるのみでした。予算は年2000円、教官は病院の医者が兼ねているという有様でした。

寄宿舎に寄ると約40名の学生のうち十数名が読書中で、奇特な学生を小山は喜びます。東の間、彼らが読んでいたのは医学書ではなく、「浮華淫靡の稗史小説」(『小山健三傳』)だと気づきました。今の時代なら別段異様とは映りません。当時の一橋の学生と比較しても変わらない気がしますが、シチュエーションとしては最低でした。追い打ちをかけるように、町から帰舎した学生が玄関に木履はくろを投げ散らかしたまま平然と部屋に戻る様を見て、小山は怒りの念を覚えます。

翌日、病院長を県庁に呼びつけた小山は、医学校が主で県立病院が従とならなければ医学の発展はないと訴えます。そのための予算を学務課が県知事に上申し、医学校の学科課程、校則を改定するとしました。病院長に異論はなく、ぜひにと賛同します。

しかし、前日の寄宿舎の一件は見るに堪えない、これを肅正しなければ今の話はなきものと考えてほしいと告げました。病院長はこの一言に恐縮し、後日、品行の悪い学生数名を退学させるなど医学校の風紀向上に奔走します。

## Captains 小山健三

「思ふに、上に(小山)課長その人ありてこそ、予がこの言も好果を結び得たるに外ならざる也」(『小山健三傳』)。

この後医学学校の予算は年を経るにつれ増加していきます。教授用具も漸次完備していき、教室も増築されました。教師の質も上がり、ポルト部などの活動も盛んとなります。小山は解剖学に特に傾注し、三池監獄に死刑囚の死体交付を請求しています。後の長崎大学医学部の発祥がここにあります。

## 商業教育に対する思い

長崎での小山の改革は枚挙に暇がありませんが、特に記しておかなければならないのは『商業教育』についてでしょう。小山はこれから経済立国として興隆するためには、商業教育が極めて重要であると訴えました。長崎の商業はその規模があまりに小さい。東京、大阪では大商社会社ができ、銀行も貯蓄高百万円を超える規模が出てきている。いずれの企業も海外との貿易は成長に不可避で、そこで外国商人に引けを取らない人材の育成が必要と説きました。

具体案として、外国貿易その他大事業に当たるべき人材は高等商業学校で、商工会議所の存在する商売繁盛の地には中等商業学校、さらに全国の市街地には商業補習学校を設置すべきだとしました。そして、最も大切なのは列国文明の中に入って萎縮せぬよう、外国語教育が絶対的に必要だと唱えました。

実は長崎には商業学校が1879年に設立されています。しかし、中学校令が施行された際、中学校に組み入れられ消滅してしまいました。小山

はこの商業学校を復活させます。

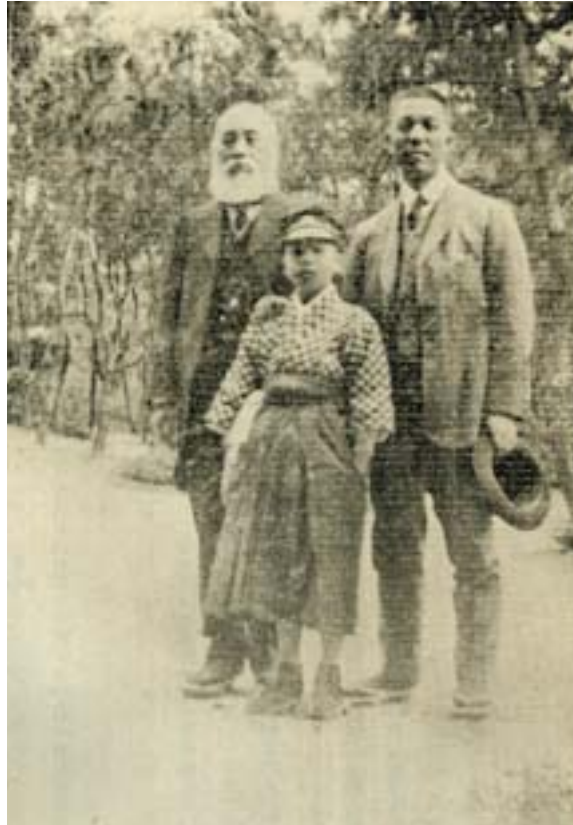
第一の問題点は復活の予算でした。小学校と商業学校では、行政官にとっても市井の人々にとってもその必要性、重要性があまりにもかけ離れている。小学校は教育の根幹で、すべての人に身近な問題ですが、商業学校なるものは商人のみの話題で、しかも商売するのに学問は必要なしという風潮の時代で、全体の理解を得るのは困難です。

思惑して小山は「五厘金」に目をつけました。五厘金は開国以来、長崎の貿易商人が利益の1000分の5を積み立てていたものです。当時その額は何十万円にもおよんでいましたが、維新以後、明治政府に没収されました。管理していた貿易会所は、商業学校設立への支出は異論なく、長崎区長、県学務課、勸業課の会議にて承諾されました。

この後、用地買収、校舎建築、校長招聘、開校へと漕ぎつづけます。開校は1886年4月でした。

## 商業教育の推進者、 森有礼文部大臣との出会い

1887年、小山は長崎の地で初代文部大臣、森有礼を迎えます。森有礼は日本の教育の向上には欧米に倣い、そのスタイルを日本に導入することこそ、近道であると考えていました。若くして



小山健三(左)と、  
令嬢津村秀松博士(右)に  
愛孫(中央)

欧米留学の経験も豊富で、日本に在る間は、教育界の整備から外交まで幅広く能力を発揮します。欧化主義と揶揄されることもありましたが、欧米列国と対等な貿易を行い、商業力を纏うにはそのほかに道なしと考えていました。

森が来崎し、師範学校視察の意のあることを聞いた小山は、頭を悩ませます。当時の師範学校の

重点科目に兵式体操がありました。

兵式体操は森が主唱した科目です。

長崎師範学校は器械体操設備はま

たくなく、お粗末

な体操場があるのみでした。

奮然として小山

は兵式体操場の整備を始めます。鉛

筆をとり設計の大

枠を構想していた

かと思ふと、次には現場で器械の備え付け、地均

しに昼夜を問わず付き添います。徹夜が続き監督

していた部下に代わり小山も監督につきました。

なんとか森有礼の視察に間に合い、森から頗る賛

辞を博しました。このとき、森は長崎の小山健三

の非凡の能力を見出したはずで

ます。また、長崎に教育会という教育家の集まりがで

きます。時の県知事日下義雄が会長、副会長には

小山が就いています。

長崎にできた『教育界』という雑誌のなかで小山は、島国である日本に将来必要なのは海運業で

あることを強く唱えました。それには商船学校の設立、航海教育が急務であるとの論文を投稿しますが、これを東京の森有礼が目にし、即座に商船学校を整備されたのです。

小山は視察の森に随行して熊本に出張します。帰崎後数カ月が経ち、急遽、熊本の第五高等中学校医学部校長兼任の命を受けます。森が熊本においても小山の力を必要と判断したからにほかなりません。長崎と熊本を行き来する多忙の日々は、1889年10月まで続きました。

## 本質を見極めた采配で、 商科大学設立を前進させる

小山は長崎県にとどまらず広く教育界に貢献してきましたが、その集大成ともいえるのが、高等商業学校の改革でした。商法講習所を祖に持つ高等商業学校は、さまざまな変遷を経て1920年に東京商科大学(第二次世界大戦後一橋大学に改称)に昇格しますが、その基礎を作ったのが小山の学校改革だったのです。1895年文部参事官に昇進した小山は、高等商業学校の校長に就任し、すぐさま学校改革に着手しました。まず手始めに高等商業学校内に独立の学科として商業科を創設し、現在の大学に相当する専攻部を設置しました。また、国内外から専門家を招聘、商業教育の充実を図りました。さらに少壮の学徒を教授や講師に任命し、優秀な者を積極的に海外に留学させました。その際の留学者には、後に商学を権威ある学問へと昇華させた福田徳三、佐野善作、関一、志田鉦太郎などがいました。世間では商業を軽視する風土がある時代に、改革を断行。しかもこれら

## 【小山健三略年譜】

- 1858年(安政5年) 武蔵国埼玉郡忍城郭内にて、宇三郎の長男として生まれる。士族。
- 1871年(明治4年) 数学助教を申し付けられる。
- 1872年(明治5年) 東京に出て測量術を学ぶ。
- 1873年(明治6年) 東京順天求合社、攻玉社にて高等数学、また化学、英語を学ぶ。
- 1875年(明治8年) 師範学校予科学校訓導として長野県に赴任する。この年に照子と結婚。
- 1876年(明治9年) 暢発学校六等教員(群馬県)。
- 1881年(明治14年) 文部省任文部六等。
- 1883年(明治16年) 長崎県に赴任。長崎県立師範学校長に就任。
- 1886年(明治19年) 学務課長兼衛生課長(長崎県)に就任。
- 1889年(明治22年) 東京職工学校委員に就任。
- 1890年(明治23年) 東京工業学校会計主務官に就任。
- 1891年(明治24年) 東京工業学校教授兼文部書記官に就任。
- 1892年(明治25年) 高等商業学校商議委員就任、東京工業学校校長代理に就任。
- 1895年(明治28年) 高等商業学校校長兼文部参事官に就任。
- 1898年(明治31年) 文部省実業教育局長就任。のちに文部次官兼任。
- 1899年(明治32年) 株式会社三十四銀行頭取に就任。
- 1920年(大正9年) 貴族院議員を任命される。
- 1923年(大正12年) 勲二等瑞宝章受章。12月逝去。



株式会社三十四銀行。小山は42歳で第2代頭取になり、晩年まで勤めた



株式会社三十四銀行頭取時代の小山健三(前右列から5人目。58歳、1915年)

のことをわずか3年弱の間に行ったのです。  
また小山は学校改革に奔走する傍ら、高等商業学校の若い生徒たちとの親交を深めていました。その関係は生涯にわたり続きます。福田徳三は、留学先のミュンヘンからエーレンベルヒやバイゲルの高等商業教育論を翻訳して送っています。さら

## Captains 小山健三

に福田は、小山に手紙を送り、1900年に開催されたパリ万博を兼ねてヨーロッパの商工業教育の実状視察を強く勧めました。また、後に名市長として関西経済の発展に広く貢献した関一を大阪行政に推したのも小山です。留学生としてミュンヘンに渡った津村秀松は、帰国後、故郷である紀州に引き込んでいましたが、小山の誘いにより神戸高等商業学校の教職についています。津村は、後

に小山の娘婿となります。  
人を育てることが、強い組織をつくり、強い経済をつくる。教育者としての信念が、経営者小山に成功をもたらしたのかもしれない。

### 【出所】

- 『小山健三傳』(株式会社三十四銀行／編・刊 1930年発行)
- 『日本の近代化と二橋』(小島慶三／著 如水会学園史刊行委員会／編 1987年発行)
- 『小山健三と商業教育―西欧商業学の導入と普及―』(『大阪春秋』53号 西沢保／著 新風書房／刊 1988年発行)
- ※文中敬称略
- ※引用文中の旧仮名づかい、旧漢字は、現代表記へ改めました。

一橋大学には、ユニークでエネルギー溢るような女性が豊富と評判です。

彼女たちがいかにキャリアを構築し、どのような人生ビジョンを抱いているのか？

第30回は、日経BP社にお勤めの記者、治部れんげさんです。  
聞き手は、商学研究科准教授の山下裕子です。

# もつと野に咲け、蓮華草

## 暗記より、現場

**山下** 治部さんは日経BP社で活躍されているかわら、子育てをめぐる問題などについて講演をされたり、ブログやツイッターで積極的に発言されていますね。ジャーナリストは天職といった印象がありますが、一橋大学に入学した当時は弁護士志望だったそうですね。

**治部** 法廷ものの小説を読んで、冤罪を晴らすなんてカッコいい仕事だな、と(笑)。法律を学ぶことは教養としては面白かったのですが、私の期待したものと違っていました。たとえば「一票の格差」の問題にしても、結局のところ判断は通説や判例を基準としているわけです。決定的にムリと思ったのは、2年生のときの司法試験の予備校での体験。通説にひたすら赤線を引いて覚える



### 治部れんげ (じぶ・れんげ)

1974年生まれ。1997年一橋大学法学部卒。

日経BP社に入社し、『日経エンタテインメント!』、『日経ビジネス』、『日経ビジネスアソシエ』、『日経マネー』などの4誌を担当。

2006年7月から2007年8月までフルブライト・ジャーナリストプログラムで渡米、ミシガン大学女性教育センター客員研究員。

「アメリカ男性の家事育児分担とそれが妻のキャリアに与える影響」について文献調査とインタビューを行う。

3歳の男の子の母。2011年秋には、第二子が誕生する。

著書に『稼ぐ妻・育てる夫』（勁草書房）。

日経BP社記者

治部れんげ氏



Renge Jibu

商学研究科准教授

山下裕子



Yuko Yamashita

ように指導を受けました。優秀な方々は、こうしたことをきちんとクリア、立派に社会派の弁護士になっていきますが、私にはできませんでした。根が単純なせいも、悪いことは悪いとはつきり語る方が性に合っていたのです。

**山下** 異説の女ですね（笑）。ゼミで強烈な取材を体験されたと伺いました。

**治部** 1年生のときに所属した社会学部の濱谷正晴先生のゼミで、社会調査のアプローチに影響を受け、3〜4年生では、福田雅章先生の刑事政策のゼミでオウム真理教取材を体験、ジャーナリズムの面白さを知ったのです。取材のときは、信者と間違われたいようになるべく派手な恰好でと言われて、アクセサリーをじゃらじゃらつけたりして（笑）。

**山下** 現場で身体を張って、時の問題に飛び込んでいく。法律家からマスコミに方向を切り換えたのは、ごく自然に思えますね。なぜ総合誌ではなく、経済誌だったのですか？

**治部** 日経BP社を受けたのは、あるOBの勧めでした。でも、当時、日経新聞は読んだことがなかったし、経済なんて難しそうで（笑）。入社試験の作文の課題は住専問題またはマスコミの未来だったので、マスコミの論調は偏っているという主旨の作文を書きました。一橋大の学出身の女性は珍しかったので拾ってもらえたのかもしれない（笑）。



## 記者時代にフルブライト・ジャーナリストプログラムで、米留学

**治部** 私は1997年に入社し、当初は『日経エントテインメント!』に配属。3年目に『日経ビジネス』に異動しました。『日経ビジネス』とその次に異動になった『日経ビジネスアソシエ』にいた2000年〜2005年が一番働いた時期でしたね。毎日何件か取材し、夜は社で原稿書き。明け方まで仕事ということもしょっちゅうでした。深夜勤務の場合はある程度までタクシードライバーだったので、その範囲で通える場所に引っ越してしまいました。

**山下** 文字通りの長時間労働ですが、そういう働き方をどう見ていらしたのですか？

**治部** 当時は、長時間労働に飲まっていた（笑）。労働時間が長いことは、よくやり玉にあげられますが、もし悪いことばかりでしたら、とくに崩壊しているはずだと思えます。まだ若かったこともあるかもしれませんが、上司や先輩社員の方々が熱心にメンタリングしてくれました。お酒もよく飲みましたね。飲コミュニケーションは中高年男性を批判するあたりで議論されることが多いけれど、彼らに部下に与えてくれるものは、やはりすごいものがあると思う。自分のワーク・ライフ・バランスを犠牲にした、ボランティア精神とか、職場や会社に対する無償の愛に支えられていると思えますね。



**山下** 女性が育ててもらっているうちはいいんだけど、女性が部下を育てる立場になるとものすごく大変になりますね。

**治部** もちろん、男性上司の無償の愛が可能なのは、彼らの妻たちが家事・育児などのシャドウワークを一手に引き受けているからです。ただ、夜遅くまで会社に残っていることに妙な高揚感があることも事実です。家庭があり、子どもがいる立場でいえば、夜・お酒だけではなく、昼ご飯や朝ご飯という選択肢もあかなと思いますね。

**山下** 無償の愛を何に捧げるか、が、問われてきますね（笑）。日本社会全体のワーク・ライフ・バランスにも深く関わってくるのではないのでしょうか。治部さんがアメリカでの研究をもとに書かれた『稼ぐ妻・育てる夫』は、日本人にとっても有益な示唆を与えてくれるように思います。

**治部** 会社の留学休暇制度を利用し、フルブライト・ジャーナリストプログラムで渡米したわけですが、私自身にとってもさまざまな発見がありました。インタビューした女性たちは高学歴でキャリアを持ち、夫婦で戦略的に役割分担をしているんです。夫たちも堂々と、「僕より彼女のほうが稼げるから」「子どもをちゃんと育てたいから」と語っている。オープンに喋ってくれることに正直驚きました。

**山下** アメリカの男性が積極的に家事・育児をするようになった背景には、80年代後半からの産業構造の変化により中産階級の男性の経済力が低下して、妻たちが働かざるを得なくなった事情があるわけですね。

日本でも90年代以降、同じような状況が起きていく。その一方、男性の育児休業の取得率はまだまだ低いし、子どもを育てるための環境や制度もとても十分とはいえませんね。

**治部** 以前、雑誌で調査したとき、女性が働きやすい会社は、男性の育児休業取得率が高いという結果が出ました。アメリカ人男性が家事・育児に参加できるのは、雇用主と交渉でき、いろいろな制度を利用できるからでもあります。雇用の流動化と実力主義が根付いてい



実感しましたね。  
**山下** 夫のサポートと制度のサポート、両方がちゃんとなることが理想ですが、現実には、なかなか、二つが揃いませんね。

るんです。雇用の流動化と実力主義が根付いていすから、仕事ができる人は会社を辞めることができ、時期が来たら再度役割分担して職を得ることもできる。そういうチョイスができるんですね。女性の働き方を考えることは、男性の働き方を考えることと等しいと思います。

念みたいなものもあるでしょう。かわいそうと言った瞬間に、いろんなことがおかしくなる。歪んでしまふと思うんです。現状では公立の保育園は「福祉」の範疇ですが、そろそろ脱却してもいいと思う。子どもに対する投資として、親と切り離し、いろいろ

### 一橋の女性たち

ろなりソースを投入するといった視点があつていと思います。

**山下** 「高齢者をケアするコスト」と「子供たちへの投資」の間でどうバランスを取っていくのか、これからの国政は本当に難しい。身近な男性に期待するほうが、ずっと、現実的ですね(笑)。



## 夫のサポートが妻のキャリア形成に影響する

**山下** 秋に第二子を出産される予定ですが、それに合わせて、夫君が育児休業を取られるそうですね。  
**治部** はい。夫は研究へのアドバイスをしてくださいましたし、本を書いていたときは生後数か月の子どもを育てながらでしたから、もう無理かもしれないと思つたとき「家事はほかの人でもできるけど、この本はほかの人には書けない」と言ってくれたことが支えになりました。夫のサポートが妻のキャリア形成にいかに重要な役割を果たすか、身をもって

## 対談を終えて

### 「あなたの代わりは誰もいない」

「家事はほかの人でもできるけど、この本はほかの人には書けない」

この台詞、どっかで聞いたことがあると思ったら、映画『ヴィクトリア女王 世紀の愛』だった。アルバート公が女王をかばって凶弾に倒れるクライマックス・シーンである。「あなたの代わりは誰もいない」 れんげ夫、やるなー。

古めかしいヴィクトリア朝を舞台にした台詞が、現代の女性の心を鷲掴みにできるのには、ちょっとしたトリックがある。表面的には社会的に特別な存在だという意味なのだが、根底に、中世から延々と続く、一人の女性に理不尽なまでの愛と忠誠を誓うロマンスの定型をきっちり踏まえているのだ。「社会にとってあなたは特別」を、「僕にとってあなたは特別」がしっかりサポートしている。21世紀の騎士道精神とでも申しませうか。二重の意味での「あなたは特別」に、21世紀の女性たちは痺れるわけですね。

そう、れんげさんは、特別である。

過激な宗教団体への体当たり取材を行うような、「左」的学生時代を送りながら、「右」本流の経済誌の記者になってしまう。そして、オジサン社会の中で、とことん働く。それまでは、「僕にとってあなたは特別」レベル、だったかもしれない。しかし、れんげ女王は、経済誌で社会的なテーマを取り上げてもらえるように、どんどん論点を磨いていくのである。これは、「社会にとってあなたは特別」レベルだ。でも、実は、「僕にとってあなたは特別」、と言われ続けた女性こそが社会の壁を突破できるのかもしれない。

「あなたの代わりは誰もいない」というような人が、今の日本の社会に求められているのはあまりにも明白だ。「みんな一緒に」頑張る競争だけでは、新興大国の勃興する世界で疲弊するばかり。世界は、日本に、特別な何かを求めているのだから。

「あなたの代わりは誰もいない」とこっそりささやき続けてきた男性たち、あなたにとっての特別な女性は、世界にとっても特別かもしれませんが。騎士道精神なんて照れくさい、という向きには、江戸の風流はいかがでしょうか。

「手に取るな やはり野に置け 蓮華草」 (山下裕子)



## 川端康成と明治維新、 そして自由への希求

方さんは、もともと日本に関心を持っていた。

「私はいわゆる文学青年でした。中学時代に先生に何度も作文を褒められたことから自然に文学が好きになり、将来はライター、物書きになりたいと考えようになっていたのです。世界中の文学を読んでいたのですが、とりわけ川端康成がノーベル文学賞を取ったことに強い興味を持ちました。後に受賞した大江健三郎と違って、日本的なところが評価されて受賞したことに関心を持ったのです。川端康成によって、日本的なものの美しさが世界に認められたわけです。これはすごいことだと思いました。留学した理由の半分は親近感ですね。川端康成や横光利一を読んで、東洋的なところに惹かれていたのです。

加えて、明治維新にも関心を持っていました。中国では1966〜1976年の文化大革命後から改革開放が始まり、1980年代には近代化に向けて舵を切り始めていました。そんな環境にあったことから、自然と日本の近代化のはしりである明治維新に関心を持ったのです。日本の場合は、明治維新から現在まで、紆余曲折がありながらも一貫して近代化を進めて成長しています。それはどうして可能だったのだろうか？ 抽象的な理論ではなく、社

## 留学生活から生まれたビジネスモデル ——国際通信とエスニックメディアとの融合



「あなたも日本に来なさいよ」

半年ほど前に日本に留学していた中学時代の同級生の言葉が、方淳さんの留学の決意を後押しした。1986年のことだった。そのころ年間12人程度だった中国人留学生が、方さんが留学した1987年春からだんだん増えてきた。ちなみに、その年にNTTが携帯電話サービスを開始している。初期の留学生である方さんは、苦勞はあっても持ち前の前向きなバイタリティーで乗り切り、今では企業経営者として日本で活躍している。

中和情報センター 代表取締役社長

方淳氏

社会学研究科博士課程

第

2

回



# Ties and bonds

会そのものを見て確かめてみたいと思ったのです」  
これまででしか知らなかった抽象的なものを、日本に行つて自分の目で見て確かめることに興味があったのである。

「中国で大学を卒業し、就職しましたが、月給は35元でした。当時のレートで日本円に換算すると500円ぐらいです。その仕事を辞めて、借金をして訪日しました。自由な社会への憧れがあったからです。『自分で何かをやつて、ものにしたい』という願望です。いわば、当時は自分の置かれていた環境が窮屈だったために、半分は日本への興味からでしたが、半分は中国から脱出したいという欲望が芽生えてきたのだと思います。アメリカに行つたらまた違ったかもしれませんが、自分には感覚的にアメリカは合わないというところがありました。また、国に残つた大学の同級生のなかには上海市長になった人もいますし、共産党の幹部になった人もいますが、そうした世界は自分にはまったく興味がなかったのです。何よりも自由にやりたかった。それには日本留学が手っ取り早かったです」

## さまざまな仕事を体験し、『留学生新聞』の記者に

それまで方さんは、飛行機に乗ることがなかった。「日本に着いたときには飛行機酔いでフラフラ。経済的にはどうにかなると樂觀していましたが、そのときは『どうなるの



かな？」と本当に不安を感じました」と笑う。

来日前に文芸評論などを発表し始めていたので、そのときにはまだ、「物書きになろう」「何か書きたい」という気持ちが強かったという。小説か散文かは別にして、「ともかくペンで生計を立てたい」と思っていたのである。そのため、いろいろなことを体験したいと思い、レストランの皿洗いから始まつてさまざまなアルバイトをした。

「労力の割には給料が安い、いわゆる当時3Kと呼ばれていた仕事ばかりを体験しました。こうした裏方の仕事を通じて、表面にはなかなか表れない日本の庶民の発想を知ることができました。日本社会が、こうした裏方の努力で支えられている

のを知ったのは、大きな成果といえます」

そのころ、中国系のエスニックメディアの嚆矢である『留学生新聞』は草創期で、創刊号が出たばかりだった。それを見て、「これなら自分にもできるのではないか」と思って、方さんは編集部を訪ねた。創刊早々ということもあって、編集部は、編集長とスタッフ3名の小さな所帯だった。人材不足で困っていたこの編集部で、2号目から記事を書くことになったのである。

「最初のころは、自分が見た日本の感想のようなものを書いていました。もともと政治問題には関心がありませんでしたが、しだいに社会問題について記事を書くようになっていったのです。たとえば、

歌舞伎町の事態、チャイナ・マフィア、花嫁問題……。振り返ってみれば1987〜1989年がバブル経済のピークにあたります。そのころの日本は、私としては『第2の開国』ととらえていたほど、国際化がブームになっていました。来日して、日本経済の上り坂を自分の目で見て、その後の推移も体験できたのはラッキーでしたね」

留学生の視点で日本経済や社会の姿を取り上げた『留学生新聞』の方さんの記事は注目を集めた。

## 木山先生との出会いから 一橋大学大学院社会学研究科に入学

三菱銀行(当時)にスポンサーになってもらい、第1回留学生文化祭を開いた。そんなこともあって、『朝日新聞』の「ひと」欄に取り上げられたりもした。1989年から



は、記者として活躍するかたわら東京大学大学院に研究生として通うことになった。

「東京大学は私には少し窮屈な感じがありました。研究姿勢が強く問われているように感じたからです。たとえば、私の関心は社会でさまざまな事象を体験することになりましたが、それよりも研究室で文献や資料を分析することのほうに重きが置かれていたのです。日本の社会を知りたいと思って来日した私は、100%純粋な学問に関心があったわけではなかったのです。多少違和感がありました。」

来日前に書いた文芸評論が中国の有名雑誌に掲載されたこともあり、来日していたある中国人の教授と親交がありました。その教授が一橋大学の木山英



一橋大学は自分に合っているなと思いました。

雄教授との関係が深かったこともあって、その文章を木山先生にお見せしたのです。すると、『一橋大学を受けてみなさい』ということになりました。一定の評価をしていただけたようです。こうして一橋大学大学院社会学研究科の修士課程に入学することになりました。結果として一橋大学を選択したことが、私の人生にとって大きなプラスになりました」

## 生きている社会学を 実地に学んでいる実感

当然、『留学生新聞』で働きながらの入学である。1983年に中曽根内閣が「留学生10万人計画」を打ち出した。当時、日本は先進国のなかでも極端に留学生受け入れ数が少なかったこともあって、受け入れ留学生数をフランス並みの規模にしようという計画だった。そのため、1988〜1989年には中国から年間2万〜3万人という大量の留学生が来日している。なお、2003年には受け入れ留学生は10万9508人となり10万人を突破している。そのうち7万人以上が中国からの留学生である。

「急激に中国人留学生が増え、生活習慣の違いから、留学生と日本社会との間には、大きな摩擦がありました。そこで、『留学生新聞』では、アパートの借り方、ゴミの出し方、生活ルール・マナー、騒音問題……と身近な問題を取り上げるようになってきたのです。また、日本人の習慣はこうだと紹介する延長線上で、そのころ起きていた中国人関係の事件も追いかけてきました。たとえば当時、大量の密航者が来て問題になっ

ていました。それを日本の全国紙などマスコミの社会部と共同で取材したこともあって、人脈が広がりました。密航問題で和歌山県に取材に行ったときには、『朝日新聞』の記者と関西支社で打ち合わせをし、和歌山支局の記者と一緒に現場で取材しました。こうして新聞に書いた記事は、中国人も興味を持って読んでくれました」

その後、方さんは日本の国際問題などをフォローしていた。すると方さんのところに社会問題の研究者が来るようになり、方さんがインタビューをされるようになった。方さんに「生きている社会学、という学問をやっている実感が生まれた」瞬間である。

## 自分が壁をつくらなければ 受け入れられる

ゼミは木山ゼミ。

「木山先生の学問は、文献的なレベル、あるいはテキストの読みの深さ、鋭さでは学会でも高く評価されています。その先生を私が歌舞伎町にまで引っ張り出したことがあります。先生は、学問以前に文学は、生の人間の学問であるとして、『人間としての基本的なセンスがある』と、私の研究スタイルを評価してくださいました。それで気持ちがあがります。先生は、先生の寛容さには、今でも深く感謝しています。」

また、学問的には高島善哉先生の直弟子の渡辺雅男先生も、きちんとした学問を継承しながら発想がとて柔軟でした。一橋大学は自分に合っているなと思いました」



大学院にも日本社会にも、スムーズに溶け込んでいる。その理由は、方さんの持つて生まれたオープンマインドな性格にもあるようである。

「大学院で学ぶ人の半分は学者になります。専門家になるために熱心に勉強しています。その努力には大いに感心しています。しかし、それだけに狭いともいえます。もっとさまざまなことに挑戦して、視野を広げたほうがいいのではないのでしょうか。学問自体の国際化も進んでいますから、視野を広げて誰もやっていないような学問をやればいいと思います。」



日本はよく閉鎖的な社会だといわれますが、私はそう感じたことは一度もありません。まず大切なのは、自分が壁をつくらないことです。日本人は、初対面のときは確かに壁をつくりませんが、打ち解けると、逆に壁も何もなくなり、そして一度信頼されるとずっとその関係が続くのです。だから、早く壁を取り払えるような姿勢が必要になるのです。逆に、中国人や欧米人は一つの壁を突破してもまた別の壁があるといった感じで、日本人以上に慎重な対応が必要です」

## ようやく見つけた研究テーマが先生に評価される

大学院に入学したころ、留学生会館が完成した。入寮は抽選だったが、方さんはそれに当たって2年間寮生活を送ることになった。45平方メートルぐらいある部屋で、目の前には桜が咲いていた。

「環境もいいし、経済的にも大変助かりました。ところが肝心のゼミのほうは、しばらくテーマが見つかりませんでした。半年以上迷ってしまっただけ

す。そして、木山先生のアドバイスを受け、王国維という中国の大学者にたどり着きました。彼は私と同じ浙江省出身で、中国に最初に西洋哲学を紹介した人として知られています。日本とのかかわりも深く、若いころ上海で、当時中国のお雇い教師だった藤田劍峰、田岡嶺雲などに師事。日本語と英語、哲学を学び、カント、ショーペンハウエルなどの哲学を翻訳しながら自身が編集長をしていた『教育世界』に哲学論文を発表しました。中国では天才的な学者として認められていましたが、実際には当時の日本での研究成果を参考にしていたのです」

明治時代中ごろの日本は、ドイツ文化の流入にシフトし始めていた。一方、中国では清朝が体制維持のためドイツを研究し始めていた。日本の学問的な仲介が無視されていたため、王国維が天才と評されていたという。実際には、西洋哲学は日本を経て中国へと入ったわけで、それが方さんの研究により文献的に明らかになってきたのである。

修士論文は、「王国維と藤田劍峰」。先生からは「この研究は誰もやっていないものだから博士論文にまとめたらどうだ」と勧めていただいた。

「王国維の研究は英語と日本語がメインですが、博士論文を書くにはドイツ語も勉強しなければなりません。まだまだ時間がかかりそうですね。経営者を辞めてドイツに留学しようか、と思うこともありませう」と笑う。

## ハイリスク覚悟の来日だったが恵まれた環境が待っていた

私費留学生の場合、日本に来て勉強ができません。失敗している人も大勢いるという。その多くは生

## 海外へ行って、とにかく何かをやってみることが面白い。

活が成り立たず、学問に支障をきたすというケースである。

「私の場合は、三菱銀行(当時)の奨学金をもらい、留学生会館に入り、『留学生新聞』の記者として給料をもらい、社会の勉強をし、学問をやる……と例外的に恵まれていました。」

現在、高校1年生の娘は国際人になりたいといってカナダに留学していますが、高校2年生の息子は保守的で今の日本人の学生のように日本を出たがりません。海外に行くことをリスクだと思っているようなのです。海外で苦労して何のメリットがあるのかと考えています。頑張っただけ勉強して成績はいいのですが、かえって保守的になっているようです。

私は、まったく逆の発想を持っています。行っただけでどうなるかではなく、行ってとにかく何かをやってみることが面白いのです。失敗から学ぶことも多いのです。ハイリスクだからハイリターンがあるわけで、最初から保障してもらえないようなところではローリターンしか期待できません」

## 独立を後押ししてくれた言葉「最後に学問に戻ってくればいい」

『留学生新聞』の記者をやっている間、国際通信会社が同紙に広告を出稿するようになってきた。当時、中国語の新聞は『留学生新聞』しかなかったため、在日中国人をターゲットにした当然の戦略ともいえる。これが、方さんが後に事業をおこす際のヒントになった。

『留学生新聞』に携わっていた4〜5年の間に、『中文導報』が創刊されました。創刊してから2年間かけて同紙は定期購読者を300名ほど獲得して

いました。その後私は、『中文導報』に移籍することになりました。

2年ぐらい記者をやるうちに、しだいに『自分でも何かをやりたい』と思うようになっていききました。こうして1996年に会社をおこすことになりました。もともと、大きな組織で働く気はなく、自分で何かをやりたいという思いが強かったのです」

経営者になった方さんだが、大学院への未練を捨てきれないこともあるようだ。「当初、私は経営者としてやっていける自信がある一方で失敗することも覚悟していました。失敗は恐れないが、早々に経営に失敗したら、研究生活に戻りたいとも考えていました。これは安易な逃げ道ではなく、学問は自分の人生の最終決戦であると考えています。結局、会社経営が順調にいったことで、学問への道はどんどん遠ざかってしまいました。学問への未練はありますが、今は、日本の社会から試されているときです。しばらくは、この時間を楽しみたいと思っています」

奨学金をもらっていた三菱銀行（当時）には、恩返しという気持ちもあって、すぐに口座を開設。やがて融資取引も始まった。

## 順風満帆から逆風に これからが本領発揮のとき

会社をおこしたときのビジネスモデルは、通信とメディアの融合である。国際通信とエスニックメディアを結びつけて、顧客の便宜をはかるという発想であり、これまでの体験が活かされている。国際通信会社の代理店になったわけだが、大手通信会社の本部長が一橋大学出身者で、良好な関係が続いている。

「在日中国人は増えていきます。現在では80万〜90万人のデータがありますから、国際通信の市場としてはかなりのマーケットといえます。会社は自然に大きくなってきました。ところが、通信料



金の下落が甚だしい。設立当初には中国への通話が1分間1000円程度だったのが、現在では何と3円程度になってしまったのです。かつてとは逆に、会社の収益は自然に縮小してしまいました。今は次の一手を構想中です」

日本社会全体が縮小傾向にあるが、方さんに悲壮感はない。何にでもチャレンジできる、そんな方さんの生き方が、エネルギーの源になっているのだろう。



### ◆方淳（ほう・じゅん）

- 上海出身。浙江省寧波が故郷。
- 華東師範大学卒業。
- 学問も人生の一部と考えている。
- 1987年、25歳で来日。
- 1年半、日本語学校で学ぶ。
- 1989年4月東京大学大学院で研究生。
- 1991年一橋大学大学院社会学研究科入学。
- 1994年博士課程。
- 1996年株式会社中和情報センター設立。
- 2002年単位取得退学。
- 一橋大学には11年間在学した。



大学院生とビジネスを掛け持ち。事業は最盛期を迎えていた1999年当時。長男、長女とともに。



一橋の学生時代に、妻と長男を連れて浙江省寧波に帰郷。祖父母とともに。



ハードロックやヘヴィメタルを聴き始めて20年になります。一般的には、『ヘビメタ』という、若干の蔑みを含んだ略称と、髪の毛を長く伸ばした男たちが金切り声をあげているようなイメージで語られることが多いジャンルです（それも間違っていないのですが）。しかし長い間いろいろと聴いてみると、バンドの出身国や世代による曲調の違い、演奏技術やヴォーカルに対するアプローチ、歌詞の世界観など様々で、ひとくくりに『ヘビメタ』と片付けられない程の幅の広さと深みのあるジャンルだと思っています。

ここでは、これまで20年間飽きずに聴き続けているカナダのバンド、RUSHを紹介します。

## 時代とともに変化し続ける、カナディアンハードロックバンド「RUSH」

RUSHは1974年にデビューし現在も活動を続けるバンドで、ベース・ヴォーカルとギター、ドラムスの3人編成のバンドです。音楽的には、イギリスのプロGRESSIV・ロックの影響を受けたハードロックですが、シンセサイザーを大胆に使ったり、レゲエやオルタナティブ・ロックの要素を取り入れたりして、時代により変化を続けています。

私が初めてRUSHに触れたのは中学1年の時でした。バンドをやっていた従兄から借りたCDの中に、『Exit...Stage Left』（邦題『ラッシュ・ライブ～神話大全』）がありました。このアルバムの1曲目、"The Spirit of Radio"を聴いた時から、RUSHのファンになっていました。一橋の学部時代には、サークルの仲間と何曲もコピーをしました。

# ハードロックバンド「RUSH」の魅力

## 厚みのあるサウンド、ウィットに富んだ歌詞

RUSHの魅力をまとめると、複雑な変拍子とメロディーのあるドラムス、そして3人編成らしからぬ厚みのある音です。

通常、曲中に拍子が変わると不自然なノリになってしまうのですが、RUSHの場合、曲中に何回も拍子が変わるにもかかわらず、自然なメロディーを聴かせてくれます。ドラムスのNeil Peartは自分を取り囲むようにセッティングされた膨大なドラムセットのすべてを使い分け、音程があるかのようなドラムソロを演奏し、ベース・ヴォーカルのGeddy Leeは、難しいフレーズを弾きながら歌い、足ではシンセサイザー・ペダルを操作するという離れ業、ギターのAlex Lifesonは特徴的な分散コードとエフェクトによって音の厚みを増すのに貢献しています。ポップなメロディーと、こうした演奏の技術の高さに裏打ちされた小技、ウィットに富んだ歌詞が、何度聴いても飽きないRUSHの魅力です。

例えば、1980年発売の"The Spirit of Radio"は、ラジオ向けに短い曲を書くように求められたメンバーがラジオの商業主義を皮肉る曲なのですが、歌詞の最後がSimon and Garfunkelの某有名曲の引喩であるのに気づいた時にはうれしくなりました。

## 世界では評価されているのに…

実は、今回RUSHを紹介したのにはわけがあります。84年に1回来日して以来、一度も日本でライブをやっていないのです。理由はいろいろあるようですが、世界における評価の高さに比べ、日本でのそれが著しく低いのが一因のようです。

DVDやインターネットでライブの映像を見ることはできるのですが、やはり直接、間近で見てみたいという思いが強いです。再来日の可能性は高くないようですが、興味をもたれた読者の方、CDを買って日本に呼びましょう。

# Captains of Industryたるもの Captains of Householdたれ

ファイナンシャルプランナー（FP）の藤川太さんは、元大手自動車会社のエンジニア。1997年の地球温暖化防止京都会議に際しては、自社が出演する環境自動車の開発を担った秀才です。その彼が「日本の家計を元気にする！」と転身・独立して14年、現在はテレビ・新聞等にも引っ張りだこの人気FPとして大活躍しています。そんな藤川さんに出会ったのは私が30代半ばだった8年前。私自身、安定した銀行での勤務から外資系運用会社の株式アナリストに転じて数年が経ち「自分と家族の家計は自分で守る」という意識がようやく芽生え始めた頃でした。当時加入していた生命保険証書を手「保険の見直し」をお願いして以来のご縁が続き、今では保険や家計のみならず人生設計や会社経営においても最も信頼する相談相手としておつきあいいただいています。

10年にわたり1万3000件を超える家計を診断してきた藤川さんが、その経験を踏まえて著したのが『家計株式会社化のススメ』です。やり手のビジネスマンとして会社では厳しく数字を管理しているのに「家計」となるとまるで無頓着、収入は人並み以上のはずなのに金が貯まらない、というサラリーマンに対して、具体的な事例と対策を示しながら「家計を会社に例えて考えよう」とすすめています。主な論点を以下にまとめてみます。

## 「中途半端な小金持ち家庭」が危ない

経済環境が厳しい中で「普通の生活ができれば、それでいい」と考える人が増えている。ところが人口減少を背景とした、下りエスカレーターを昇っているような時代にあっては、親の世代が実現してきた「普通の生活」を望むことさえ贅沢になってきた。1965～97年は1桁台であった貯蓄ゼロ世帯の割合は、今や20%を超えている。意外にも、最もリスクが高いのは、実は年収800万～1500万円程度の「中途半端な小金持ち」層だ。年収1000万円以上なのに消費者金融の常連という人も少なくない。これまで当然視されてきた4つの選択肢、すなわち「専業主婦」「車」「持ち家」「教育」についてさえ取捨選択が必要な時代に入っている。立派な家、外車、子女の教育は私立で、という生活が当たり前という意識になると、例えば800万円の収入が1500万円になっても少しも生活が楽にならない。



加えて、ここ1～2年はこうした所得層の年収が100万円単位でカットされることも珍しくない。

## 名字の下に株式会社をつけ、経営改善に努める

では、どうするか。手始めに、自分の名字に「株式会社」をつけてみよう。その家計株式会社経営者であるあなたは、積極的に経営改善を進めて厳しい環境を乗り切っていく必要がある。「企業理念」は家族の夢であり「経営方針」はライフプランと考えると理解しやすい。多くの家計では収入が減ると食費・被服費、お父さんのこづかいといったやりくり費（つまり変動費）を削るが、それではモチベー

ションが下がってしまう。貯めるのが上手な家庭は、まず固定費を削る。見栄っ張り、断れない、先送りする、比較検討しない、といった社長が経営する家計は固定費の塊となり貧乏神が住み着いてしまう。財産を増やしたいのなら、まず「きちんと働く」（すなわち本業で安定的に稼ぐ）こと、そしておカネの流れをコントロール出来るようになることが大切だ。家計をしっかりと経営しおカネが貯まれば、好きな人生を自分で自在に選択し、充実した生活を送ることが出来るのだから。

## 家計改善の考え方は、企業分析にも通用する

いかがでしょうか。「家計＝企業」「あなた＝経営者」というアナロジーは「貯金が増えなくて…」と悩んでいるヒトにとってはもちろんのこと、私のライフワークである「企業分析」の分野でも通用するような、多くの示唆を与えてくれます。有名FPという著者の肩書きに「ナイシヨのポロ儲け話」を期待する向きには全くお奨めできませんが、平易な文章で書かれた内容は説得力も十分です。家計改善の初心者には、ライフプランシートや企業財務比率を応用した家計分析指標などのツールも役立ちます。「Captains of Industryたるもの Captains of Householdたれ」との思いを込めてご紹介する一冊です。

『家計株式会社化のススメ』  
 藤川 太／著 講談社刊  
 定価：880円（税込）  
 2011年5月20日発行



在学生の保護者・在学生

2名 (100,000円)

江藤恭充 様  
八木 彰 様

卒業生のご家族・一般の方

6名 (51,826,499円)

故小林 輝之助 令夫人 アヤ子 様  
福田 新・道雄 様  
古川教行 様  
Ezra F. Vogel 様  
澤江梢子 様  
本田孝雄 様

企業・法人等

15団体 (55,881,000円)

株式会社イーター 様  
インフォレストマーケティング株式会社 様  
オリオン書房 様  
株式会社カメイホールディングス 様  
KDDI株式会社 様  
株式会社ジニアス 様  
社団法人如水会 様  
ゼネラルエンジニアリング株式会社 様  
株式会社セレモアつくば 様  
株式会社ダイヤモンド・ビッグ&リード 様  
立飛企業株式会社 様  
株式会社パラダイス・カフェ 様  
株式会社ビーフェイスクリエイティブ 様  
他2団体

本学役職員

22名 (1,410,000円)

黒田昌義 様	鈴木良一 様	並木 浩 様	紅葉山健策 様
桑原隆人 様	諏訪義熙 様	成田 達 様	森 滋史 様
桑山修平 様	関口修道 様	成田 亨 様	森田 稔 様
幸地通夫 様	副田伸也 様	西岡 健 様	矢澤愼也 様
小金井一憲 様	曾我辺美保子 様	西村 翔 様	安田孝一 様
小樽和男 様	曾田 拓 様	根崎修一 様	柳澤 裕 様
小島 繁 様	平良雄大 様	納土祥滋 様	柳原英樹 様
小鷹狩正視 様	高桑 泉 様	能谷 充 様	山内繁勝 様
小塚正巳 様	高橋知史 様	野村覚藏 様	山川未来夫 様
小寺孝一 様	高柳繁雄 様	萩 禎 様	山口英資 様
古寺淳二 様	竹内敏男 様	橋本哲次 様	山口 榮 様
小西慶和 様	竹脇 量 様	橋本剛昌 様	山口仁史 様
小林 晃 様	田代未知子 様	畑野祐一 様	山口正光 様
小林信介 様	辰島 剛 様	花田一憲 様	山崎真也 様
小林民夫 様	伊達貫一郎 様	濱田榮朗 様	山下訓正 様
小松卓人 様	立石信義 様	濱田 浩 様	山田敬一 様
斎藤英秋 様	田中 章 様	浜館郷一 様	山田壮夫 様
西藤浩之 様	田中 清 様	林 治一 様	山田高章 様
齋藤 信 様	田中潤一 様	樋口 晃 様	山田英夫 様
齋藤 操 様	田中 弘 様	平賀茂孝 様	山中啓史 様
佐伯慎一 様	田中富士雄 様	平原重利 様	山本逸哉 様
早乙女立雄 様	田辺 淳 様	平松 喬 様	山本 繁 様
坂口卓夫 様	谷川昌隆 様	福島 勅 様	夕田謙二 様
坂田保之 様	溜笛俊之 様	福田潤弥 様	湯川久義 様
笹森健太郎 様	千葉義道 様	福田達夫 様	湯原育文 様
笹森利彦 様	對木隆英 様	藤井敬久 様	吉國眞一 様
佐藤 明 様	塚本文一 様	藤田一裕 様	吉崎英輔 様
佐藤一郎 様	月岡 昌 様	藤村高繁 様	吉田國治 様
佐藤 建 様	柘植達人 様	藤本真一 様	吉田幸夫 様
佐藤政雄 様	辻田美也子 様	藤本 隆 様	吉田 涉 様
澤田恭明 様	津田樹己 様	藤森克己 様	吉野 昇 様
重見庸典 様	土田常武 様	二木太三 様	米倉喜一郎 様
篠崎拓也 様	土屋祐一 様	星崎功明 様	若色福治 様
柴田正純 様	鶴巻 暁 様	堀江宏朗 様	若林昭夫 様
柴本泰宏 様	寺畑正英 様	前垣 博 様	和田元春 様
渋谷忠輔 様	土井徳秋 様	蒔田正人 様	渡辺一史 様
島崎 誠 様	常盤潤一郎 様	増田 修 様	渡辺浩司 様
下出憲一 様	戸塚雄幸 様	松浦侃次 様	渡邊静雄 様
下島文明 様	永井 豪 様	松田直治 様	渡辺淳平 様
下村恭司 様	中川淳一 様	松田好生 様	渡邊佐男 様
莊 雅行 様	中川博英 様	丸山直行 様	渡邊 徹 様
庄司政義 様	長久保純子 様	三浦伸夫 様	綿辺文紹 様
白井敏昭 様	長沢洋一 様	三浦 元 様	和地秀一 様
神保金之助 様	中島常之 様	水口源彦 様	10月クラブ 道草会 様
末延幸辰 様	仲野恒恭 様	水野隆喜 様	昭和44年卒 6クラス 様
杉森 務 様	中野祐嗣 様	宮川守久 様	蝗会 村松祐次ゼミナール 様
杉山 靖 様	中村謹三 様	宮崎五三夫 様	中津川輝夫・如水コンサート企画 様
鈴木喜一郎 様	中村 克 様	宮崎敬三 様	他51名
鈴木哲夫 様	中村洋一郎 様	宮本史明 様	
鈴木憲章 様	中村佳央 様	村尾 斉 様	
鈴木数馬・麻由美 様	中山絵理香 様	村上周郎 様	
鈴木亮一 様	南雲和利 様	村田哲久 様	
	梨本忠彦 様	室 慎一 様	



## 一橋大学基金へのご協力、心より御礼申し上げます。

卒業生、在学生の保護者・ご家族の方をはじめとした皆様からご寄付をいただき、2011年8月末現在で、総額約42億9,000万円（入金済分）に達しました（うち2億円は、創立125周年記念募金より繰り入れ）。この場をお借りし、皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

ご寄付をいただきました方々へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。

今号では、2011年6月1日から2011年8月末日までの間にご入金を確認させていただいた方を公表させていただきます。公開不可の方、本学役職員につきましては掲載していません。また、ご寄付者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮でございますが、基金事務局までご連絡ください。

ご寄付をいただいた方すべての皆様を「一橋大学基金寄付者芳名録」に記し、一橋大学の歴史に永く留めさせていただきます。また、30万円以上（法人100万円以上）のご寄付に関しましては、ご芳名を本館設置の「一橋大学基金寄付者銘板」に記させていただきます。

なお、募金目標額は100億円となっております。皆様の一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。



### ご寄付のお申し込みについて

●お手紙・ファックスまたはお電話で、ご住所とお名前をお知らせください。基金事務局より、ご案内、寄付申込書および払込用紙をお送りいたします。

●一橋大学基金ホームページより、クレジットカードによるお申し込みも受け付けております。トップページ上方の「ご寄付のお申込み」メニューからお進みください。

一橋大学基金ホームページ  
<http://www.kikin.ad.hit-u.ac.jp/>

### 如水会会員証カードをお持ちの卒業生の皆様へ 継続ご寄付のご案内

一橋大学基金では（社）如水会と連携し、如水会会員証カードによる継続ご寄付の受け付けをしております。

お申し込みいただきますと、如水会会員証カードから定期的に自動払い込みにてご寄付を頂戴することとなり、お振込の手間を省くことができます。

また、ご寄付の回数は、年1回（2月または8月）と年2回（2月および8月）よりお選びいただけます。如水会会員証カードをお持ちの卒業生の方はぜひご検討ください。

詳しくは、ホームページをご参照いただくか、下記までお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ先】

一橋大学基金事務局  
 〒186-8601 東京都国立市中2-1  
 TEL: 042-580-8888  
 FAX: 042-580-8889  
 E-mail: gen-kj.g@dm.hit-u.ac.jp

【ご寄付者ご芳名】 ※五十音順に掲載させていただきます。

#### 卒業生

378名・4団体（31,734,525円）

ご寄付金額（累計）

100万円以上	50万円以上 100万円未満	50万円未満
13名	7名	358名・4団体
池田 壘 様 和泉信一 様 伊藤進一郎 様 宇田川有里 様 江藤洋一 様 太田 穰・順子 様 奥村一郎 様 桶舎富士子 様 近藤慶信 様 齊藤昭男 様 春山楨兒 様 平野雅昭 様 山崎彰人 様	河井征治 様 仙波英躬 様 高尾雄彦 様 外池 徹 様 中村敬太郎 様 中森 徹 様 他1名	相川光弘 様 大内功吉 様 大隈 暉 様 大島康弘 様 太田順司 様 太田真治 様 太田直樹 様 大竹 洋 様 大森 憲 様 大森啓作 様 緒方基一 様 岡野内良男 様 岡原慎一 様 岡本健二 様 岡本真哉 様 岡本聖紀 様 小川秀彦 様 奥野雄二 様 奥原純子 様 桶谷秀昭 様 長田 健 様 小沼恒雄 様 小野裕二 様 柿田智行 様 片山恒雄 様 片山敏夫 様 勝木忠正 様 門脇日出男 様 金木慶太 様 兼松勝弘 様 上村 寛 様 河合秀直 様 加輪上浩之 様 川口 卓 様 川田 隆 様 河辺善太郎 様 川村洋二 様 寒竹 章 様 上林哲也 様 菊島正雄 様 菊地政夫 様 菊原啓行 様 来嶋慎也 様 木戸 昇 様 木村勘二 様 木村文雄 様 久木田正樹 様 久保敬三 様 久保東彦 様 熊田泰也 様 栗原啓一 様 黒川和子 様 黒田竜史 様 黒田信忠 様



#### 銘板色

【ブロンズ】  
 個人：30万円以上  
 法人：100万円以上  
 【シルバー】  
 個人：100万円以上  
 法人：500万円以上  
 【ホワイトゴールド】  
 個人：500万円以上  
 法人：1,000万円以上  
 【ゴールド】  
 個人：1,000万円以上  
 法人：5,000万円以上  
 【プラチナ】  
 個人：3,000万円以上  
 法人：1億円以上  
 （金額は累計）

## 平成23年度一橋大学附属図書館企画展示のお知らせ

附属図書館では、本学のさまざまな所蔵資料を公開することを目的として、平成13（2001）年に公開展示室を開設しました。以来、常設展示にて本学の歴史や所蔵資料を紹介するとともに、毎年11月の一橋祭の時期に企画展示を開催しています。

本年度の附属図書館企画展示は「読書のかたち：読む行為と空間」と題し、西洋における読書の歴史を振り返ります。読書の歴史をさかのぼると、手にするのが本でなく巻物であったり、書かれている文字が活字でなく手書きであったり、ひとり静かに行う読書でなく声に出して周囲と共有する読書であったりと、現在の読書と異なる点が多くあります。本展示は、図書・パネル・映像・読書スペースを通じ、現在の読書習慣から離れて過去の読書を追体験していただく試みです。期間中には講演会の開催を予定しています。

日時・会場等は下記のとおりです。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



## 平成23年度一橋大学附属図書館企画展示 「読書のかたち：読む行為と空間」



**【展示】** 期間：平成23年11月1日（火）～11月15日（火）  
 ※11月3日（木・祝）、12日（土）、13日（日）は閉室  
 入場：9：30～16：30（閉室17：00）※入場無料  
 会場：附属図書館 公開展示室（国立西キャンパス 時計台棟1階）

**【講演】** 講師：長谷川輝夫（元上智大学教授）  
 演題：「近世フランスにおける読書の歴史」  
 日時：平成23年11月8日（火）14：30～16：00  
 会場：附属図書館 研修セミナールーム（国立西キャンパス 時計台棟1階）  
 ※入場無料、事前申し込み不要



なお、内容・日時等に変更が生じる場合がありますが、その他詳細と併せ、附属図書館のウェブサイト（<http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/tenji/>）にて随時ご案内申し上げます。  
 お問い合わせ先：学術情報課 学術・企画主担当  
 (E-mail:kikaku@www.lib.hit-u.ac.jp Tel:042-580-8252 Fax:042-580-8232)

〈編集・発行〉

一橋大学HQ編集部

〈編集部長〉

副学長（財務、社会連携、企画・評価、情報化担当） 小川英治

〈編集長〉

言語社会研究科教授 坂井洋史

〈編集部員〉

商学研究科准教授 松井 剛  
経済学研究科教授 水岡不二雄  
法学研究科教授 王 雲海  
社会学研究科教授 阪西紀子  
国際企業戦略研究科准教授 大上慎吾  
経済研究所教授 青木玲子

〈外部編集部員〉

有限会社イブダワークス 吉田清純

〈印刷・製本〉

株式会社石田大成社

〈お問い合わせ先〉

一橋大学企画・広報室広報担当  
〒186-8601 東京都国立市中2-1  
Tel: 042-580-8032 Fax: 042-580-8016  
<http://www.hit-u.ac.jp/>  
koho1284@dm.hit-u.ac.jp

※ご意見をお寄せください。

一橋大学企画・広報室広報担当  
koho1284@dm.hit-u.ac.jp

※本誌掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。

●広告掲載お問い合わせ先

一橋大学企画・広報室広報担当  
TEL: 042-580-8032

編 集 部 か ら

地方での集中講義の最終日、突然腰痛に襲われた。それ以前から左下肢の感覚が妙で、足の接地部分は無感覚に近いので、さては2年前の旧病が再発したかと、暗澹たる気分になった。その後色々検査して、再発説は否定されたようだが、その際の医師の言い分。手術したとはいえ、感染の原因になった菌を完全に除去できたわけではない、僅かでも残っていれば、疲労やストレスを原因とする免疫力の低下を機に、再び増殖しないと限らない、手術後の体は別の体なので、体質の変化にはよくよく注意しなければならない云々。前回この欄を担当した時、免疫力向上のために漢方薬を服用していると書いたが、喉元過ぎれば熱さ忘れるの喩え通り、1年程で放り出してしまった。慣性に麻痺することなく、潜伏している危機に敏く想像力を巡らせ、日頃から備えを怠らないことが一番ということらしい……何やら震災の教訓のような話である。(不生)

## 節電アイデア・コンテストを実施しました

今夏は、先の東日本大震災の影響による電力不足を受け、本学も昼間の電気使用量15%削減を目標に、節電に取り組みました。

これまでも、省エネルギーに取り組んできましたが、大幅な節電を効率的・効果的に実施するためには、教職員だけでなく学生の英知と行動が必要不可欠であるため、本学学生の省エネ・節電に対する意識の向上と、節電対策が充実するよう、節電アイデアやポスター・標語を募集しました。その結果、31件の応募があり、以下の受賞者が決定しました。

本学は、受賞作品をはじめとする学生のアイデアを活用しながら、これからもさらなる節電に取り組んでまいります。

### 節電アイデア部門

#### 【最優秀賞】

「小平国際学生宿舎節電プロジェクト」  
商学部2年 サディノヴ・オリムジョン

#### 【優秀賞】

「節電ウオッチャー制度」  
商学部2年 鈴木亮治

### ポスター・標語部門

#### 【最優秀賞】

「エゴをエコに。」  
商学部4年 松石 悠  
社会学部4年 寿栄松顕人  
商学部4年 田貝雅和

#### 【優秀賞】

「GET HEALTHY → SAVE ENERGY」  
社会学部3年 清水恵介



「エゴをエコに。」をテーマとし、ローマ字表記「EGO」を示す照明の「G」の字の一部を消すことで「EGO」が「ECO」となる、という表現によって、エゴイズムで電力を浪費するのではなく、節電を心がけ、エコに努めることを呼びかけている。

審査員 小川英治 理事・副学長（エネルギー管理統括者）  
山内弘隆 商学研究科教授  
柴田 大 財務部施設課長

## 一橋大学法科大学院が、平成23年司法試験合格率で4回目の全国トップとなりました

法科大学院修了者を対象とした平成23年司法試験（新司法試験）の合格者が9月8日（木）、法務省から発表されました。

本学法科大学院修了者142人（昨年138人）がこの試験に挑み、うち82人（昨年69人）が合格しました。本学の合格率は57.7%（昨年50.0%）で、全国の法科大学院のなかでトップとなりました。合格者数、合格率ともに、昨年を上回る結果となりました。

なお、今回の試験全体の合格者数は2,063人、合格率は23.5%でした。

# 一橋大学兼松講堂レジデントオーケストラ 国立シンフォニカー

## 第3回定期演奏会

ベートーヴェン「コリオラン」序曲 op.62

L.V. Beethoven Coriolan Overture, op.62

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 op.18

S. Rachmaninov : Concerto For Piano And Orchestra No.2 C minor, op.18

ブラームス 交響曲第2番 ニ長調 op.73

J. Brahms Symphony No.2 in D major, op.73

# Kunitachi Symphoniker



《ピアノ》  
ケマル・ゲキチ



《指揮》  
宮城敬雄

開催日：**2011年12月10日(土)** 場所：**一橋大学兼松講堂**

開演 14:00 [開場 13:15]

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

料金(税込)：プレミアム席 6,500円 / S席 4,500円 / A席 3,000円 / B席 2,000円

主催：社団法人 国立シンフォニカー

協賛：株式会社大塚家具、オリオン書房、株式会社セレモアつくば、  
立飛企業株式会社、高輪プリンツヒェンガルテン

後援：一橋大学、社団法人 如水会、国立市、  
国立市教育委員会

協力：一橋大学管弦楽団

前売販売中

販売窓口

03-3443-1524 (10:00~20:00 / 月曜定休) 高輪プリンツヒェンガルテン内 国立シンフォニカー事務局

※事務局へお申込みの方は、下記口座までお申込み日より1週間以内にチケット代金をお振り込みください。

三菱東京UFJ銀行 三田支店 (店番 653) (普) 0028127 名義：社団法人 国立シンフォニカー

※手数料はご負担ください。ご入金確認次第、チケットを郵送致します。(メール便)

プレイガイド

■チケットぴあ 0570-02-9999

■電子チケットぴあ <http://t.pia.jp/> (Pコード:140-666)

■国立市内の取扱店 ●洋菓子・喫茶「白十字」南口店 042-572-0416

●国立楽器 国立店 042-573-1111 <http://www.kunitachi-gakki.co.jp/>